

秋田県出土の珠洲系陶器資料集成(上)

栗 澤 光 男

はじめに

筆者が珠洲系陶器（須恵器系中世陶器）にふれる機会を得、それを知ったのは、1985（昭和60）年11月14・15日の両日、秋田県埋蔵文化財センターにおいて「秋田県内の珠洲系陶器」をテーマとした埋蔵文化財研修会が行われた時である。この研修会では、珠洲焼研究の第一人者である吉岡康暢先生（国立歴史民俗博物館考古研究部教授）に講師をお願いして、その研究方法の指導と、「珠洲系陶器の歴史的展開」と題して御講演をいただいたことや、当会担当であった先輩職員2人と筆者の3人が、開催にあたって全県から珠洲系陶器を借り集めて研修会資料を作成したこと、そしてこれが縁で、当時センター副所長であった岩見誠夫先生の肝入りで、当センター研究紀要第1号に「秋田県の珠洲系陶器」と題して掲載したことを思い起こす。

あれから「光陰矢のごとし」で12年が過ぎ去った。この間、開発事業に伴う遺跡の発掘調査が増大して、主に城館跡等の消費地から珠洲系陶器の出土報告例も多くなり、かつ、窯跡の発掘調査1件と範囲確認調査1件が行われて、供給源（生産窯）の貴重な資料も蓄積されてきた。

そこで、今後も出土例が増加することを見据えてデータベースとすると共に、いまだ埋もれている珠洲系陶器を見いだすため、研究者のみならず広く一般にも知ってもらうことを目的として、研修会時に集成した珠洲系陶器資料を基に、今日までの発掘調査などで発見された資料を加えて再集成を試みることにした。

以下では、1．珠洲系陶器出土地の分布、2．珠洲系陶器出土地とその器種について記述する。

なお、遺跡名の後ろの（ ）内の数字は第1図・第1・2表中の出土地番号に対応し、その所在地と各出土地毎の引用・参考文献の番号を第1・2表に記した。

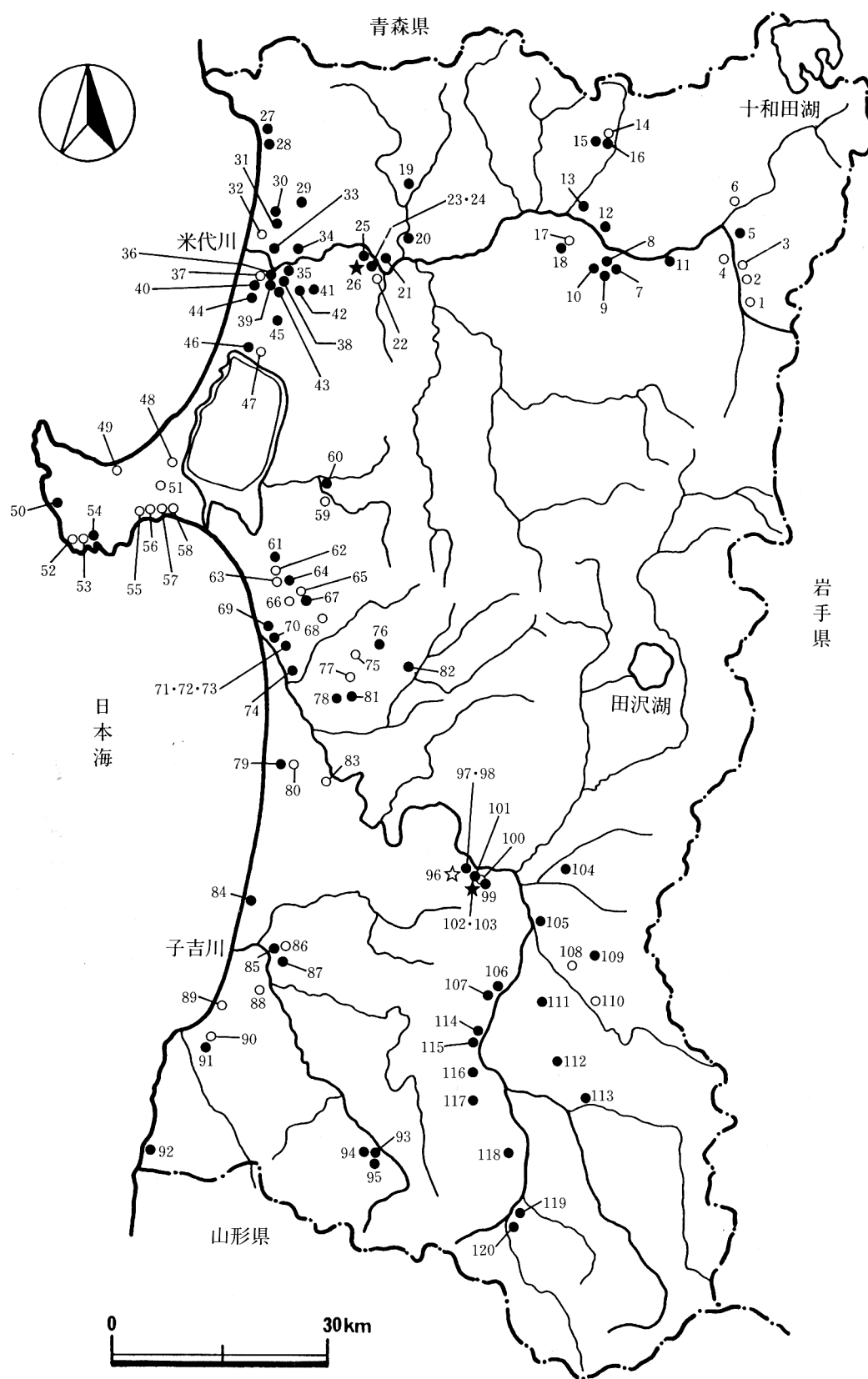
また、掲載した珠洲系陶器資料図は、研修会資料・報告書・研究論文などから転載したものであるが、その縮尺は4分の1に統一した。

1．珠洲系陶器出土地の分布

秋田県内において珠洲系陶器の出土地は、現段階で120箇所（第1図・第1表）である。これらの多くは発掘調査、畑地の耕作、工事で偶然発見されたものと研究者などによって採集されたものである。

珠洲系陶器出土遺跡の分布は、米代川・雄物川・子吉川の秋田三大河川とその水系流域に見られ、ほぼ全県域にわたっている。もっとも密な地域は米代川下流域の能代市・山本郡で、次いで男鹿半島と秋田市周辺、雄物川流域の順である。

日本海沿岸に多いのは当時、日本海交易の港があったことに起因すると考えられる。それと窯跡が県北と県南にあり、各々の地域の供給源となっていたであろうことがうかがわれる。



- | | |
|------------|---------------|
| ★：窯跡（資料掲載） | ●：遺物出土地（資料掲載） |
| ☆：窯跡 | ○：遺物出土地 |

第1図 珠洲系陶器出土地位置図

番号	出土地名	所在地	文献番号および備考
1	歌内遺跡	鹿角市八幡平字歌内	1
2	一本杉遺跡	鹿角市花輪字一本杉	2
3	黒土館跡	鹿角市花輪字陣場・下タ町	鹿角市教育委員会発掘調査
4	高瀬館跡	鹿角市花輪字小森沢	3
5	小枝指館跡	鹿角市花輪字古館・館神・八幡館外	4
6	当麻館跡	鹿角市十和田毛馬内字古館	5
7	大日堂前遺跡	北秋田郡比内町独鈷字大日堂	6
8	十狐城跡	北秋田郡比内町独鈷字館間	7
9	中野館跡	北秋田郡比内町中野字八幡館	7
10	谷地中館遺跡	北秋田郡比内町谷地中字館	8
11	十二所城跡	大館市十二所字台・真山岱	7・9
12	山王岱遺跡	大館市餌釣字山王岱	10
13	片山館コ遺跡	大館市片山字立杭上岱	11
14	矢立廃寺跡	大館市白沢字松原小字ハゲノ下・上ハ台	12
15	長森遺跡	大館市花岡字大森	7・13・14・15
16	粕田遺跡	大館市花岡字大森上岱	16
17	本宮館跡	大館市本宮字熊の下	16
18	前田館跡	大館市比内前田字前田山根	7・16
19	大屋敷	山本郡藤里町藤琴字大屋敷	7
20	御座堂遺跡(五輪台経塚)	山本郡二ツ井町荷上場字五輪台	17・18
21	槻木	山本郡二ツ井町字槻木	7
22	大倉遺跡	山本郡二ツ井町字大倉	19
23	切石	山本郡二ツ井町切石	7
24	切石小学校	山本郡二ツ井町切石	7
25	竜毛沢館跡	山本郡二ツ井町切石字竜毛沢	20
26	エヒバチ長根窯跡	山本郡二ツ井町駒形字茂谷沢	21・22
27	本館跡Ⅰ	山本郡八森町字本館台	7・19
28	土井遺跡	山本郡八森町字土井	23
29	内林遺跡	山本郡峰浜村石川字内林	秋田県埋蔵文化財センター保管
30	中田面遺跡	山本郡峰浜村坂形字中田面	24
31	平泉館跡	能代市比八田字平泉	17・18・21・25・26
32	神田遺跡	能代市竹生字神田	26
33	金山館跡	能代市向能代字平影野	26・27・28
34	古館跡Ⅰ	能代市朴瀬字古館	7・19・26
35	田床内遺跡	能代市田床内字大館	7・19
36	仁井田白山遺跡	能代市字仁井田白山	7・13・21・26
37	新山前遺跡	能代市字新山前	26
38	苗代沢遺跡	能代市鮫淵字苗代沢	7・19
39	腹鞆の沢遺跡	能代市字腹鞆の沢	7・19・26
40	河戸川遺跡	能代市河戸川字新屋布	21・26
41	茶臼山	能代市松山字茶臼山	19
42	茶臼館跡	能代市松山字茶臼館	19・26
43	小友Ⅲ遺跡	能代市中沢字小友	7・26
44	上ノ山Ⅱ遺跡	能代市浅内字上の山	29
45	外岡南	山本郡山本町外岡	7・16
46	館の上館跡	山本郡八竜町鶴川字館	19・26・30
47	扇田谷地遺跡	山本郡八竜町鶴川字上笠岡	秋田県教育委員会発掘調査(整理中)
48	福田遺跡	南秋田郡若美町角間崎字福田	31
49	染川城跡	男鹿市北浦相川字神田	9
50	加茂青砂経塚	男鹿市戸賀加茂青砂字向川	7・18・32
51	飯森館跡	男鹿市脇本富永字飯森	9・33
52	祓川Ⅰ遺跡	男鹿市船川港本山門前字祓川	34
53	小倉山館跡	男鹿市船川港小浜字小倉山	33
54	双六館跡	男鹿市船川港双六字館山	9・33
55	大巻遺跡	男鹿市船川港比詰字大巻	35
56	茶臼館跡	男鹿市船川港比詰字餅ヶ沢	9・33
57	脇本城跡	男鹿市脇本字七沢	9・33
58	石館跡	男鹿市脇本字向山	9・33
59	広ヶ野館跡	南秋田郡五城目町富津内下内字奈良崎	36
60	帝釈寺跡	南秋田郡五城目町馬場目字帝釈寺	32

第1表 珠洲系陶器出土地一覧

番号	出土地名	所在地	文献番号および備考
61	大沢遺跡	秋田市金足岩瀬字大沢	37
62	下刈館跡	秋田市金足下刈字館越	38
63	高田遺跡	秋田市金足下刈字高田	38
64	待入Ⅲ遺跡	秋田市金足片田字待入	39
65	長面Ⅳ遺跡	秋田市下新城小友字長面	38
66	岩城館跡	秋田市下新城岩城字下向	38
67	日吉神社跡	秋田市上新城五十丁字小林	38・40
68	山ノ下Ⅱ遺跡	秋田市上新城道川字山ノ下	38
69	穀丁遺跡	秋田市飯島字穀丁	7・13・41
70	後城遺跡	秋田市寺内字後城	7・13・42
71	秋田城	秋田市寺内字大畑外	43～45
72	鶺ノ木	秋田市寺内字鶺ノ木	7・13
73	寺内	秋田市寺内	7・13
74	下タ野遺跡	秋田市川尻字下タ野	46
75	舞鶴館跡	秋田市太平目長崎字舞鶴館	9
76	黒沢 勝手神社	秋田市太平黒沢	7
77	黒川館跡	秋田市下北手黒川字黒川	38
78	大杉沢遺跡	秋田市四ツ小屋小阿地字大杉沢	47
79	羽川新館跡	秋田市下浜羽川字湯殿沢外	38
80	弥兵衛館跡	秋田市下浜羽川字堂ノ前	7
81	古野遺跡	秋田市上北手古野字向老方16外	48
82	長者館跡	河辺郡河辺町三内字飛沢上段	7・13・49・50
83	白根館跡	河辺郡雄和町平沢字白根館	51
84	深沢	本荘市親川字深沢	52
85	上谷地遺跡	本荘市土谷字上谷地	53
86	土谷遺跡	本荘市土谷字田之沢	54
87	館前館跡	本荘市館前字館前	55
88	鳴瀬台C地区	由利郡由利町南福田字中鳴瀬	56
89	浜館跡	由利郡西目町出戸字館	57
90	山根館跡	由利郡仁賀保町小国字古館	57
91	馬場	由利郡仁賀保町馬場	57・58
92	カウヤ遺跡	由利郡象潟町小砂川字カウヤ	59
93	根井館跡	由利郡矢島町元町字新田	57
94	矢島町	由利郡矢島町	7
95	土田家	由利郡矢島町元町字相庭館	7
96	甕コ沢窯跡	仙北郡南外村大杉赤平沢・大杉山	現地で確認
97	北田山田ケ沢Ⅰ遺跡	仙北郡南外村字北田山田ケ沢	60
98	北田山田ケ沢Ⅱ遺跡	仙北郡南外村字北田山田ケ沢	60
99	小出Ⅰ遺跡	仙北郡南外村字小出	61
100	小出Ⅱ遺跡	仙北郡南外村字小出	61
101	小出Ⅲ遺跡	仙北郡南外村字小出	61
102	大畑松山腰窯跡	仙北郡南外村字大畑	62
103	大畑窯跡	仙北郡南外村字大畑深山	63・64
104	一ツ森遺跡	仙北郡仙北町板見内字一ツ森	65
105	四十二館跡	大曲市藤木字糠塚、大曲市六郷西根字沼福田	66
106	劔花山の鹿島神社	平鹿郡大森町大森字十日町劔花	67
107	観音寺経塚	平鹿郡大森町上溝字観音寺	17・40・68
108	本田下遺跡	横手市安本字本田下	69
109	閑居長根1号経塚	横手市金沢字寺の沢	7・17・18・32・40・69・70
110	大鳥井柵跡	横手市大鳥町	69
111	手取清水遺跡	横手市清水田新田字皿川端	71
112	醍醐古館跡	平鹿郡平鹿町醍醐字古館	72
113	平鹿遺跡	平鹿郡増田町増田字平鹿	73
114	大沢森経塚	平鹿郡雄物川町大沢字大沢森	7・18・32・40・74
115	北野遺跡	平鹿郡雄物川町本町大沢字北野	7・13・74～77
116	院内沢遺跡	雄勝郡羽後町新田字院内沢	7・13
117	西馬内城跡	雄勝郡羽後町西馬内掘回	7
118	松岡経塚	湯沢市松岡字外堀・坊中	7・18・32・40・78
119	鶺沼城跡	雄勝郡雄勝町桑ヶ崎字平城	79
120	桐木田遺跡	雄勝郡雄勝町小野字飯塚	80

第2表 珠洲系陶器出土地一覧

2. 珠洲系陶器出土地とその器種

現在、秋田県内で珠洲系陶器の出土地は、(1) 窯跡、(2) 中世城館跡、(3) 集落跡、(4) 宗教的遺跡の大きく4つに分類できる。また、各出土地から出土した器種の主体をなすのは、甕・壺・播鉢・片口鉢などである。

(1) 窯跡

秋田県で確認された珠洲系陶器を焼成した窯跡は、二ツ井町エヒバチ長根窯跡と南外村大畑山腰窯跡・大畑窯跡・甕コ沢窯跡の4ヶ所である。そのうち発掘調査されたのは、エヒバチ長根窯跡、大畑山腰窯跡、大畑窯跡である。

エヒバチ長根窯跡 (26)

秋田県北部を西流する米代川の左岸の山地地形中、二ツ井町と能代市との境界上にある茂谷山(247.7m)から、駒形集落方向に開析された茂谷沢の北側斜面(南面斜面)に立地している。奥深い茂谷沢の中でも「エヒバチ長根」と古くから地元民によって呼ばれていた、稜線により略二等辺三角形を呈する標高70~100mの斜面である。

1977(昭和52)年刊行の『二ツ井町史』に「エヒバチ長根窯跡」として登載されているが、「茂谷沢窯」「駒形茂谷沢窯」「駒形窯」という異称で論文等に登場している。

1988(昭和63)年10月22日・23日、11月5・6日の4日間、二ツ井町教育委員会(発掘担当者:桜田隆・能登谷宣康)が、①「エヒバチ長根窯跡」の範囲確認調査、②窯体・灰原等の所在確認、③年代測定試料の採取(採取・測定:広岡公夫富山大学教授)、④生産器種の確認、⑤胎土分析試料採取(採取・分析:三辻利一奈良教育大学教授)、を目的に範囲確認調査を実施し、窯体3基の存在を確認した。

第1号窯 焚口部と窯尻部未確認。確認長7m、幅1.8m、残存壁高0.7m。

推定地磁気年代A.D1230±20年。

第2号窯 焚口部と窯尻部未確認。確認長5.4m、幅1.7m、残存壁高0.35m。

推定地磁気年代A.D1240±20年。

第3号窯 焚口部と窯尻部未確認。確認長13.9m、幅1.9m、残存壁高0.56m。

推定地磁気年代A.D1245±20年。

生産器種(第2図~第4図)は、甕(1~17)・四耳壺(18~31)・片口鉢と鉢(19~39)・小皿(40~45)・経筒容器(46・47-蓋、50-把手部)・浄瓶の注口部(48・49)・陶硯(51)の8種である。

大畑山腰窯跡 (102)

大畑山腰窯跡は、雄物川の支流である小出川と樋岡川により形成された河岸段丘上に、標高の低い舌状の尾根が数本張り出して、北方向に伸びる尾根の西側斜面に築窯されていた。この尾根は分断されていくつかの独立丘の様相を呈しており、南側に750m離れ一段高い段丘上に位置する大畑窯跡(103)は、同じ尾根の西側斜面にありながら別の丘陵に位置するように観察される。

開墾時に大量の陶器片が出土し、かつ良質の粘土層が発達していることから窯跡の存在が推定されていた。(窯跡は2~4基と推定)。

1991(平成3)年6月7日~9月4日まで南外村教育委員会が発掘調査し、全長12m、焼成部幅1.8m、焚口部幅1.3m、窯尻部幅1.5mの半地下式窖窯1基を検出した。

生産器種（第5図～第12図）は、甕（52～71）・壺（72～96）・四耳壺（98～100）・片口鉢（102～116）・堤子（117）・坏（118）・碗（119・120）・片口小平鉢（121）・小皿（122～125）・陶錘（126～130）・陶硯（131）・陶製五輪小塔（155～158）・分銅形陶製品（159～161）・播粉木（162）・羽口・水注の16種であるが、甕・壺・片口鉢が主体をなす。

胎土は微礫砂粒を混入するが緻密である。焼成は灰白色・黄褐色・灰褐色の甘いものと、青灰色・赤褐色・暗赤褐色などの堅緻なものがある。

また、小壺の胴部と片口鉢の内面には直線・曲線の線刻文、植物の葉・家紋・円の押印が見られる（132～154）。

窯跡の地磁気年代測定（西谷忠師秋田大学鉱山学部助教授）の結果では、 1210 ± 60 年と推定され、大畑窯跡よりも古いと考えられている。

本窯で生産された陶器（甕）が、同村の小出Ⅲ遺跡（101）で出土している（三辻利一奈良教育大学教授同定）。

大畑窯跡（103）

大畑窯跡は、雄物川の支流のひとつである小出川の左岸に標高の低い舌状の尾根が数本張り出して、北方向に伸びる尾根の西側緩斜面に築窯されていた。

陶器片が地表約10aに散乱していたことから、「瀬戸かけ山」あるいは「播鉢山」とも呼ばれていた。

1980（昭和55）年7月28日～8月3日まで南外村教育委員会が発掘調査を実施し、全長14.4m、焼成部最大幅2.7m、焚口部最小幅1.8mの地上式窖窯を1基検出した。

生産器種（第13図～第17図）は、甕（163～179）・壺（180～195）・播鉢（196～236）・浅鉢（237・238）・分銅形陶製品（239～241）・陶錘（242～260）の6種であるが、甕・壺・播鉢が主体をなす。胎土にごく少量の小石を含むが緻密である。焼成良好でよく焼き締まっている。色調は灰青色あるいは黒褐色のものと赤褐色を呈するものがある。

ロクロからの切り離しは回転糸切り技法のみである。また、甕などの外面の叩き目の間隔が他の資料より広いのが特徴的である。

なお、周辺には大畑松山腰窯跡、甕コ沢窯跡、赤平平家窯跡（消滅）があり、文久年代に創業した檜岡焼の陶土採掘場所となっている赤平沢には、大窯沢、小窯沢の地名が残っている。

以上、二ツ井町エヒバチ長根窯跡と南外村大畑窯跡・大畑松山腰窯跡・甕コ沢窯跡は秋田県にも中世陶器の窯跡があることを明確にしめした遺跡である。

また、本県で窯跡が発見されるまでは、珠洲系陶器といわれたものは海運でもって、能登半島から県内各地へ搬入されたものとされていた。しかし、二ツ井町エヒバチ長根窯跡と南外村大畑窯跡・大畑松山腰窯跡・甕コ沢窯跡が発見されたことにより、これまで珠洲からの搬入品と考えられていた出土品の中に地元窯製品が多く存在する可能性も考えられ、県内で出土している珠洲系陶器といわれるものの生産地、流通経路について再考をしなければならないし、珠洲からの搬入品と地元窯製品の区別などについての問題点を提示したことになる。

（2）中世城館跡

時代が中世に移行してくると、公家の支配をしりぞいた武家がみずから封建支配を押し進めて、中央や地方でも武士が大きい権力を握るようになる。そして、城館は武士が領地を支配するための拠点であり、武士の生活の場でもあった。したがって、城館跡から検出された遺構・遺物は、そこに暮らした武士の生活を知

る一つの手かがりになる。

秋田県内で確認されている中世城館の数は、昭和56年秋田県教育委員会発行の「秋田県の中世城館」によると、県北（鹿角市・鹿角郡58ヶ所、大館市・北秋田郡84ヶ所、能代・山本郡89ヶ所）には231ヶ所、県中央（男鹿市・南秋田郡・秋田市・河辺郡174ヶ所、本荘市・由利郡141ヶ所）には315ヶ所、県南（大曲市・仙北郡177ヶ所、横手市・平鹿郡79ヶ所、湯沢市・雄勝郡111ヶ所）には367ヶ所で、計913ヶ所であり、その多くが一集落につき城館が一つ存在するものと推測していることから、今後、城館の調査が進むにつれて珠洲系陶器の出土する遺跡がさらに多くなるものと考えられる。また、珠洲系陶器が出土した城館跡の数は、今回集成した20遺跡である。中でも、竜毛館跡（25）（秋田県教育委員会1990年）の発掘調査では、珠洲系陶器片が多く出土した。本館跡は、二ツ井町の中央部を東から西に貫流する米代川左岸の河岸段丘縁辺部に立地しており、この段丘を柵列・空堀・土塁で区画し、3郭から構成された中世城館である。出土した器種（第19図・第20図）は、甕（288～311）・片口鉢（312・313・316）・播鉢（314・315・317・318・319・320・321・322・323）などである。出土したこれらの珠洲系陶器片のうち9点について、三辻利一奈良教育大学教授の蛍光線X線分析法による産地同定を行った結果、9点の試料のうち3点の播鉢が珠洲群（?）・不明の他は珠洲群と同定された。竜毛沢館跡から南西へ直線距離1.5kmに位置するエヒバチ長根窯跡産の珠洲系陶器が1点も出土しなかったことから、同窯跡の操業時に本館跡が築造されていないことを示している。

竜毛沢館跡以外の館跡から出土する珠洲系陶器の器種（第18図・第21図～第25図）は、やはり甕、播鉢などや壺が多く、浄瓶（第21図-328）は1点出土しているだけである。浄瓶は、能代市比八田の平泉館（31）から出土したと伝えられ、珠洲系陶器の編年でも古い方の、鎌倉時代の13世紀に位置づけられている。現在、秋田県指定文化財である。

（3）集落跡

一般民衆の生活の場であった集落跡で珠洲系陶器を出土した代表的なものとしては、山本郡峰浜村の中田面遺跡（30）、秋田市の下タ野遺跡（74）の2つの遺跡が上げられる。いずれも発掘調査により、その集落のおおよその様子の分かっているものである。

中田面遺跡は、昭和54年4月から9月にかけて秋田県教育委員会によって調査された遺跡である。縄文時代、平安時代、中世の複合遺跡で、中世集落の様子がよく分かる遺跡である。

中世のものにかぎって言えば、掘立柱建物跡25軒、井戸10基、溝などで、建物は底のないものとあるものに分類されている。井戸の埋土から、珠洲系陶器の甕の破片が出土している。出土した器種（第26図・第27図432～434）は、甕（414～422）・播鉢（423～434）である。

下タ野遺跡は、秋田市川尻にあって、現在住宅地となっている。昭和51年と52年の2ヶ年にわたる調査で、ここでも数多くの掘立柱建物跡、井戸がみつまっている。出土した器種（第32図・第33図）は、甕（486～492）・壺（493～495）・片口鉢（496～505）である。また、出土した珠洲系陶器は、南外村大畑窯跡出土品に類似しているようだ。

ところで、集落跡は先に一般民衆の生活の場であるとしたが、中田面遺跡の場合は一般民衆だけでなく、上層階級（土豪層）の住居跡もあり、これらの人々もこの集落の中で生活していたと考えられているようである。

（4）宗教的遺跡

宗教的遺跡には経塚・墳墓・寺院跡などがある。このうち経塚の数は、秋田県教育委員会の昭和38年度の調査によると全県で28基となっている。一般には見はらしの良い丘陵上などに、小円墳状のマウンドを持っ

ておるので、それと分かるようだ。良く知られているのは、室町期頃の一字一石経を出土するものである。

湯沢市松岡字外堀にある松岡経塚(118)は、昭和29年4月に発見されたものであり、銅の経筒4、中世陶器壺3、片口鉢1、刀子、洪武通宝の古銭が出土した。経筒の1つには寿永3年(1184年)、もう1つには建久7年(1196年)の在銘がある。江戸時代の文化6年(1809年)7月に、平鹿郡大森町観音経塚(107)からは、片口鉢を蓋とした経甕の経筒が出土して、その中の1つは久安5年(1149年)の紀年銘がある。

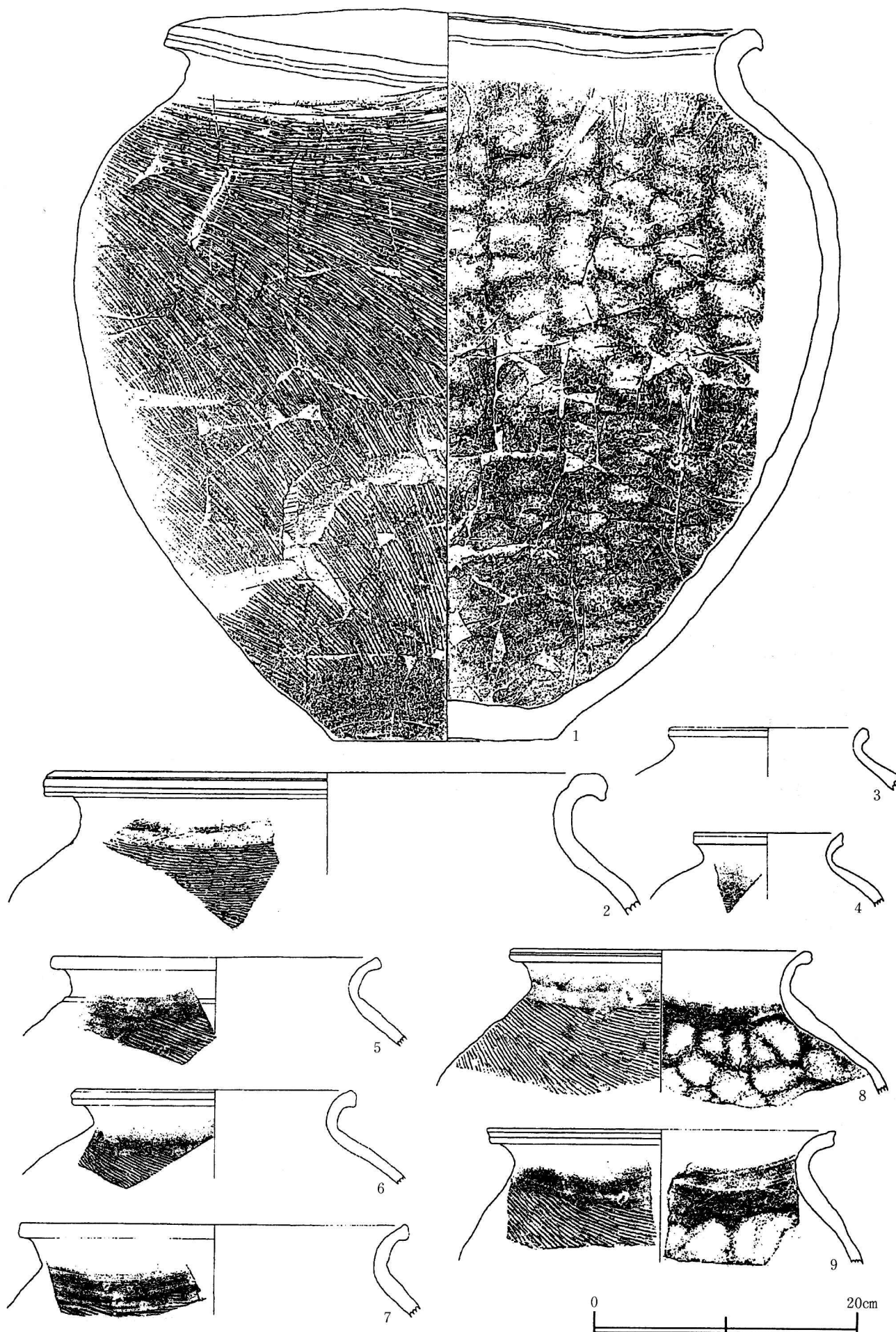
以上の陶器の出土した年代は、経筒の紀年銘から12世紀中頃のものと考えられる。紀年銘のある経筒と一緒に出土した陶器は、歴年代の基準資料として重要である。これについては吉岡先生の論文が「北陸考古学」に発表されている。(以下次号)

引用・参考文献

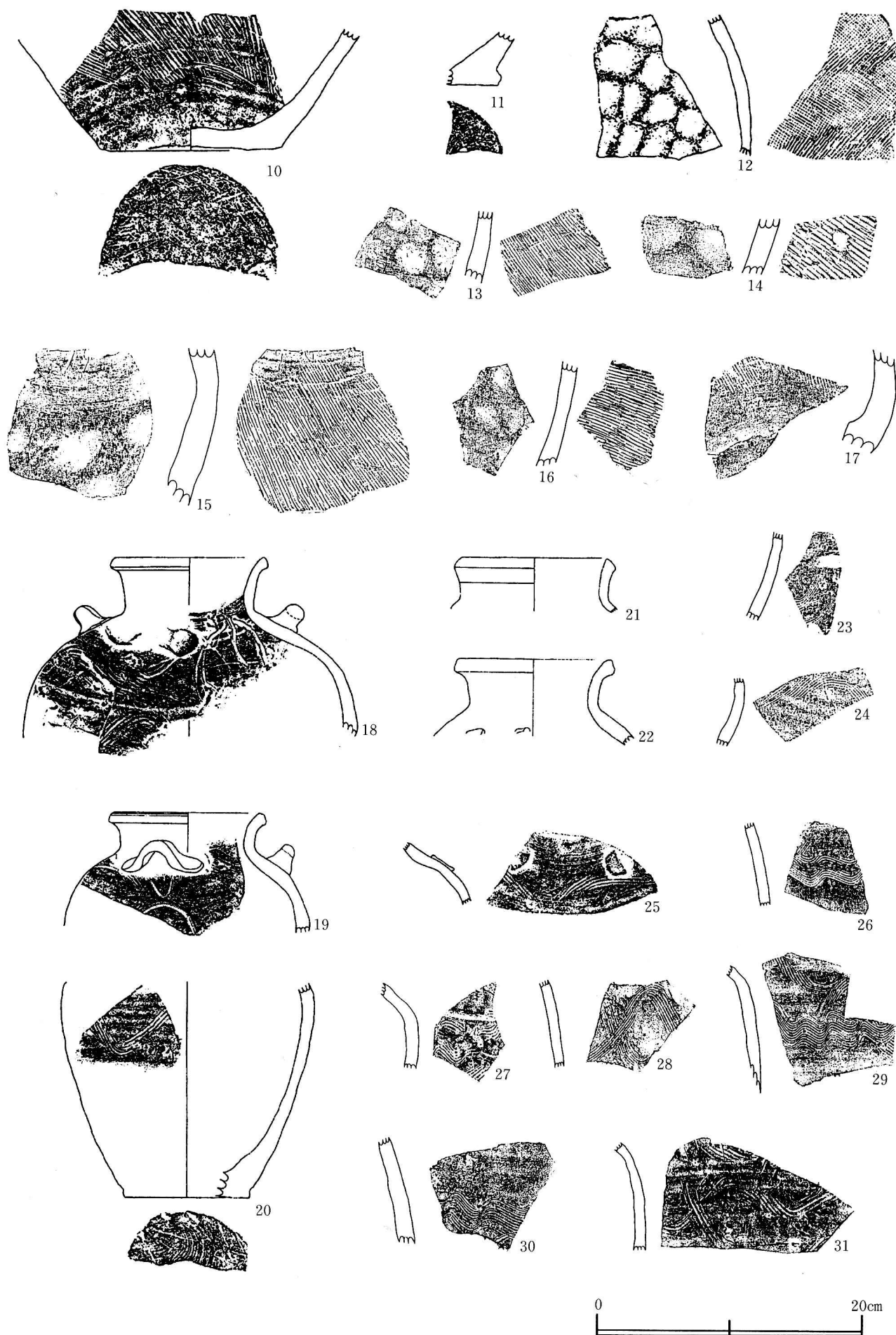
- 1 秋田県教育委員会『東北縦貫自動車道発掘調査報告書Ⅱ－歌内遺跡－』秋田県文化財調査報告書第88集 1982(昭和57)年
- 2 秋田県教育委員会『東北縦貫自動車道発掘調査報告書Ⅵ－猿ヶ平Ⅱ遺跡・室田遺跡・一本杉遺跡・案内Ⅲ遺跡－』秋田県文化財調査報告書第99集 1983(昭和58)年
- 3 秋田県教育委員会『西山区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ－高瀬館跡－』秋田県文化財調査報告書第153集 1987(昭和62)年
- 4 秋田県鹿角市教育委員会『小枝指館跡発掘調査報告書』鹿角市文化財調査資料44 1992(平成4)年
- 5 秋田県鹿角市教育委員会『当麻館跡発掘調査報告書』鹿角市文化財調査資料37 1989(平成元年)年
- 6 比内町教育委員会『秋田県北秋田郡比内町 大日堂前遺跡発掘調査報告書』 1982(昭和57)年
- 7 秋田県埋蔵文化財センター「秋田県内の珠洲系陶器」『昭和60年度 秋田県埋蔵文化財研修会』資料 1985(昭和60)年
- 8 比内町教育委員会『秋田県北秋田郡比内町 谷地中「館」遺跡発掘調査報告書』 1978(昭和53)年
- 9 秋田県教育委員会『秋田県の中世城館』 1981(昭和56)年
- 10 秋田県教育委員会『国道103号改良事業に係る埋蔵文化財調査報告書Ⅴ－山王岱遺跡－』秋田県文化財調査報告書第221集 1992(平成4)年
- 11 秋田県教育委員会『片山館コ遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第203集 1990(平成2)年
- 12 大館市教育委員会『大館市矢立廃寺発掘調査報告書』 1987(昭和62)年
- 13 栗澤光男・熊谷太郎・高橋忠彦「秋田県内の珠洲系陶器資料」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』第1号 秋田県埋蔵文化財センター 1986(昭和61)年
- 14 秋田県教育委員会『秋田県遺跡地図(県北版)』 1991(平成3)年
- 15 大館市教育委員会『大館市の文化財』 1992(平成4)年
- 16 大館市『大館市史』第一巻 1979(昭和54)年
- 17 秋田県教育委員会『秋田県の文化財』 1989(平成元年)年
- 18 吉岡康暢『中世須恵器の研究』吉川弘文館 1994(平成6)年
- 19 若松鉄四郎「能代市・山本郡出土の須恵系中世陶器」『能代山本地方史研究』3号 能代山本地方史研究会 1985(昭和60)年
- 20 秋田県教育委員会『竜毛沢館跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第188集 1990(平成2)年
- 21 武田孝義「能代地方における中世陶磁と茂谷沢窯の諸問題」『能代山本地方史研究』創刊号 能代山本地方史研究会 1982(昭和57)年

- 22 秋田県山本郡二ツ井町教育委員会『エヒバチ長根窯跡・大川口館跡・烏野遺跡』二ツ井町埋蔵文化財調査報告書第1集 1990(平成2)年
- 23 秋田県教育委員会『土井遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第111集 1984(昭和59)年
- 24 秋田県教育委員会『中田面遺跡・重兵衛台Ⅰ遺跡・重兵衛台Ⅱ遺跡・根洗場遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第74集 1980(昭和55)年
- 25 村木悦也「陶水瓶の出土地について(能代市)」『秋田考古学』第14号 秋田考古学協会 1960(昭和35)年
- 26 能代市『能代市史 資料編 考古』1995(平成7)年
- 27 能代市教育委員会『金山館発掘調査概報』1985(昭和60)年
- 28 能代市教育委員会『金山館発掘調査報告書』1986(昭和61)年
- 29 秋田県教育委員会『此掛沢Ⅱ遺跡・上の山Ⅱ遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第114集 1984(昭和59)年
- 30 秋田県教育委員会『一般国道7号琴丘能代道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ－館の上館遺跡－』秋田県文化財調査報告書第240集 1994(平成6)年
- 31 若美町役場『若美町史資料』1977(昭和52)年
- 32 吉岡康暢「経外容器からみた初期中世陶器の地域相－須恵器系中世陶器を中心に－」『紀要』第14号 石川県立郷土資料館 1985(昭和60)年
- 33 秋田県教育委員会『秋田県遺跡地図(中央版)』1990(平成2)年
- 34 磯村 亨「男鹿市祓川Ⅰ遺跡出土の中世陶器－特に越前・珠洲系陶器について－」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』第12号 秋田県埋蔵文化財センター 1997(平成9)年
- 35 男鹿市教育委員会『大巻館遺跡発掘調査報告書』1982(昭和57)年
- 36 五城目町教育委員会『図版 五城目町の文化財』第二十集・総合版 1991(平成3)年
- 37 秋田県教育委員会『大沢遺跡』秋田県文化財調査報告書第224集 1992(平成4)年
- 38 秋田市教育委員会『秋田県秋田市遺跡詳細分布調査報告書』1989(平成元)年
- 39 秋田県教育委員会『秋田外環状道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ－待入Ⅲ遺跡－』秋田県文化財調査報告書第224集 1992(平成4)年
- 40 秋田県『秋田県史』考古編 1977(昭和52)年
- 41 庄内昭男「秋田市飯島穀丁出土の中世遺物について」『秋田県立博物館研究報告』第7号 秋田県立博物館 1982(昭和57)年
- 42 秋田地所(有) 秋田市教育委員会『昭和53年度 後城遺跡発掘調査報告書』1981(昭和56)年
- 43 秋田市教育委員会・秋田城跡発掘調査事務所『昭和54年度秋田城発掘調査概要 秋田城跡』1979(昭和54)年
- 44 秋田市教育委員会・秋田城跡発掘調査事務所『昭和55年度秋田城発掘調査概要 秋田城跡』1980(昭和55)年
- 45 秋田市教育委員会・秋田城跡発掘調査事務所『秋田城跡 昭和57年度秋田城発掘調査概要』1982(昭和57)年
- 46 秋田市都市開発部 秋田市教育委員会『秋田市 下夕野遺跡発掘調査報告書』1979(昭和54)年
- 47 秋田県教育委員会『大杉沢遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第151集 1987(昭和62)年
- 48 秋田県教育委員会『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書ⅩⅨ－古野遺跡－』秋田県文化財調査報告書第253集 1995(平成7)年
- 49 河辺町『河辺町史』1985(昭和60)年
- 50 河辺町教育委員会・河辺町文化財保護審議会『河辺町の遺跡』1987(昭和62)年
- 51 長谷川秀樹「雄和町白根館の出土品について」『秋田考古学』第33号 秋田考古学協会 1976(昭和51)年
- 52 高橋 学「秋田県出土の銭貨資料集成」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』第11号 秋田県埋蔵文化財センター 1996(平成8)年

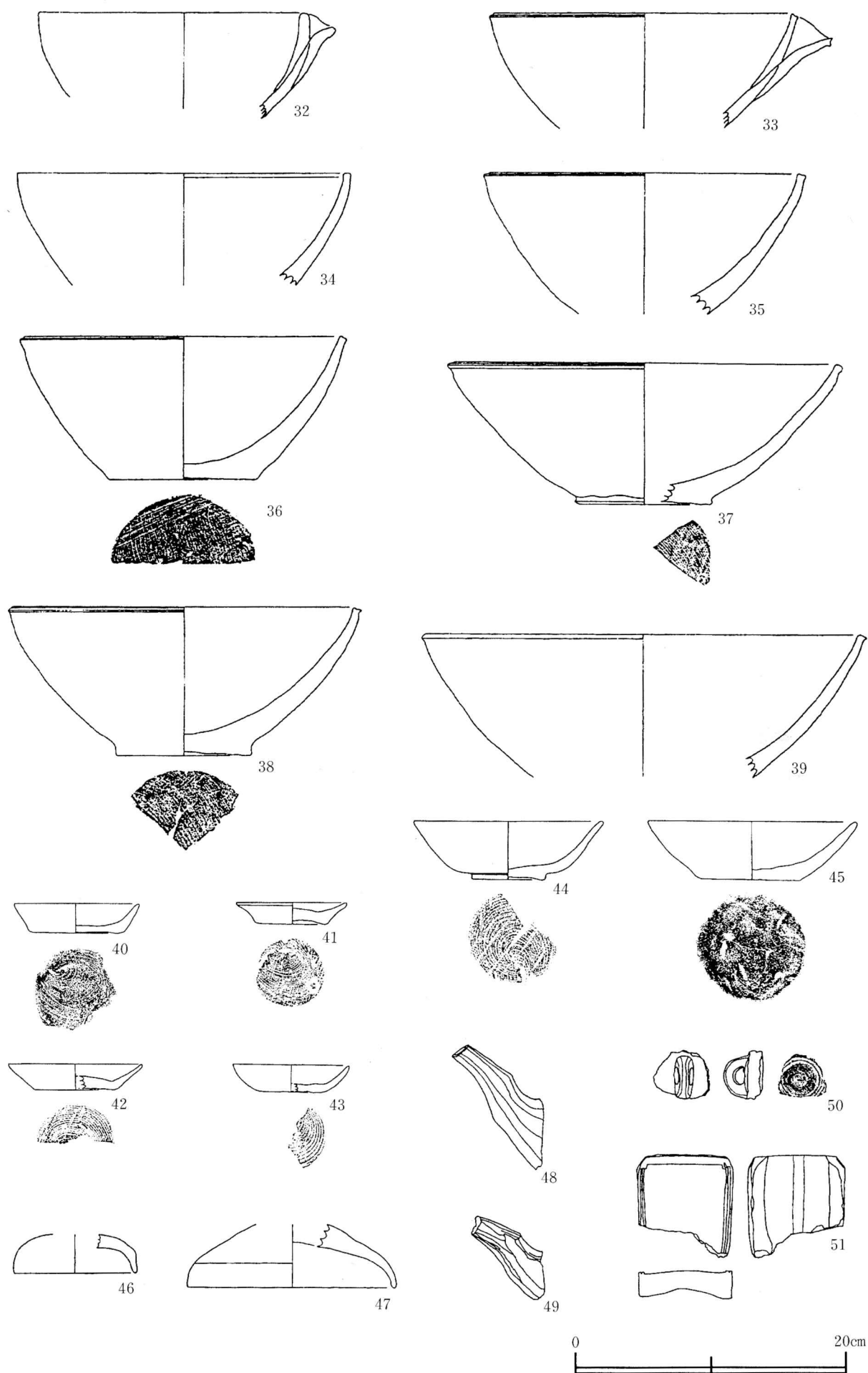
- 53 秋田県本荘市教育委員会『上谷地遺跡詳細分布調査報告書－第2次調査－』本荘市文化財調査報告書第11集
1996(平成8)年
- 54 本荘市教育委員会『秋田県本荘市遺跡詳細分布調査報告書』 1988(昭和63)年
- 55 本荘市『本荘市史』資料編Ⅰ上 1984(昭和59)年
- 56 本荘市教育委員会『遺跡詳細分布調査報告書』 1985(昭和60)年
- 57 磯村朝次郎「秋田沿岸における日本海的人文要素について－新しい秋田の地域研究のために－」『秋田県立博物館
研究報告』第5号 秋田県立博物館 1980(昭和55)年
- 58 秋田県由利郡仁賀保町『仁賀保町史』 1972(昭和47)年
- 59 秋田県教育委員会『カウヤ遺跡第2次遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第135集 1987(昭和61)年
- 60 秋田県教育委員会『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書Ⅶ－北田山田ヶ沢Ⅰ遺跡・北田山田ヶ沢Ⅱ遺跡・大畑
潜沢Ⅱ遺跡・大畑潜沢Ⅲ遺跡－』秋田県文化財調査報告書第205集 1991(平成3)年
- 61 秋田県教育委員会『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書Ⅷ－小出Ⅰ遺跡・小出Ⅱ遺跡・小出Ⅲ遺跡・小出Ⅳ遺
跡－』秋田県文化財調査報告書第206集 1991(平成3)年
- 62 南外村教育委員会『平成3年度仙北郡南外村大畑・桧山腰窯跡発掘調査報告書』 1992(平成4)年
- 63 南外村教育委員会『昭和55年度仙北郡南外村大畑窯跡発掘調査報告書』 1981(昭和56)年
- 64 南外村教育委員会『南外村誌』資料篇第六集 1982(昭和57)年
- 65 秋田県教育委員会『秋田県遺跡地図(県南版)』 1987(昭和62)年
- 66 大曲市教育委員会『四十二館跡発掘調査報告書』 1984(昭和59)年
- 67 日野 久「資料紹介：平鹿郡大森町劔花、鹿島神社出土の珠洲系陶器」『秋田考古学』第38号 秋田考古学協会
1984(昭和59)年
- 68 大森町『大森町郷土史』 1981(昭和56)年
- 69 横手市教育委員会『横手市遺跡詳細分布調査報告書』横手市文化財調査報告11 1986(昭和61)年
- 70 伊藤郷人「秋田県における城廓構造変遷の研究」『秋田考古学』第24号 秋田考古学協会 1964(昭和39)年
- 71 秋田県教育委員会『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書Ⅴ－手取清水遺跡－』秋田県文化財調査報告書第190
集 1990(平成2)年
- 72 平鹿町『平鹿町史』 1984(昭和59)年
- 73 秋田県教育委員会『平鹿遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第101集 1983(昭和58)年
- 74 雄物川町役場『雄物川町郷土史』 1980(昭和55)年
- 75 雄物川町郷土資料館『雄物川郷土資料館報告』第3号 1986(昭和61)年
- 76 豊島 昂「雄物川町大澤字北野遺跡」『秋田考古学』第18号 秋田考古学協会 1961(昭和36)年
- 77 奈良修介・豊島 昂『秋田県の考古学』郷土考古学叢書3 1967(昭和42)年
- 78 文化財保護委員会『埋蔵文化財要覧二』吉川弘文館 1959(昭和34)年
- 79 秋田県教育委員会『鶴沼城跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第73集 1980(昭和55)年
- 80 秋田県教育委員会『桐木田遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第95集 1982(昭和57)年



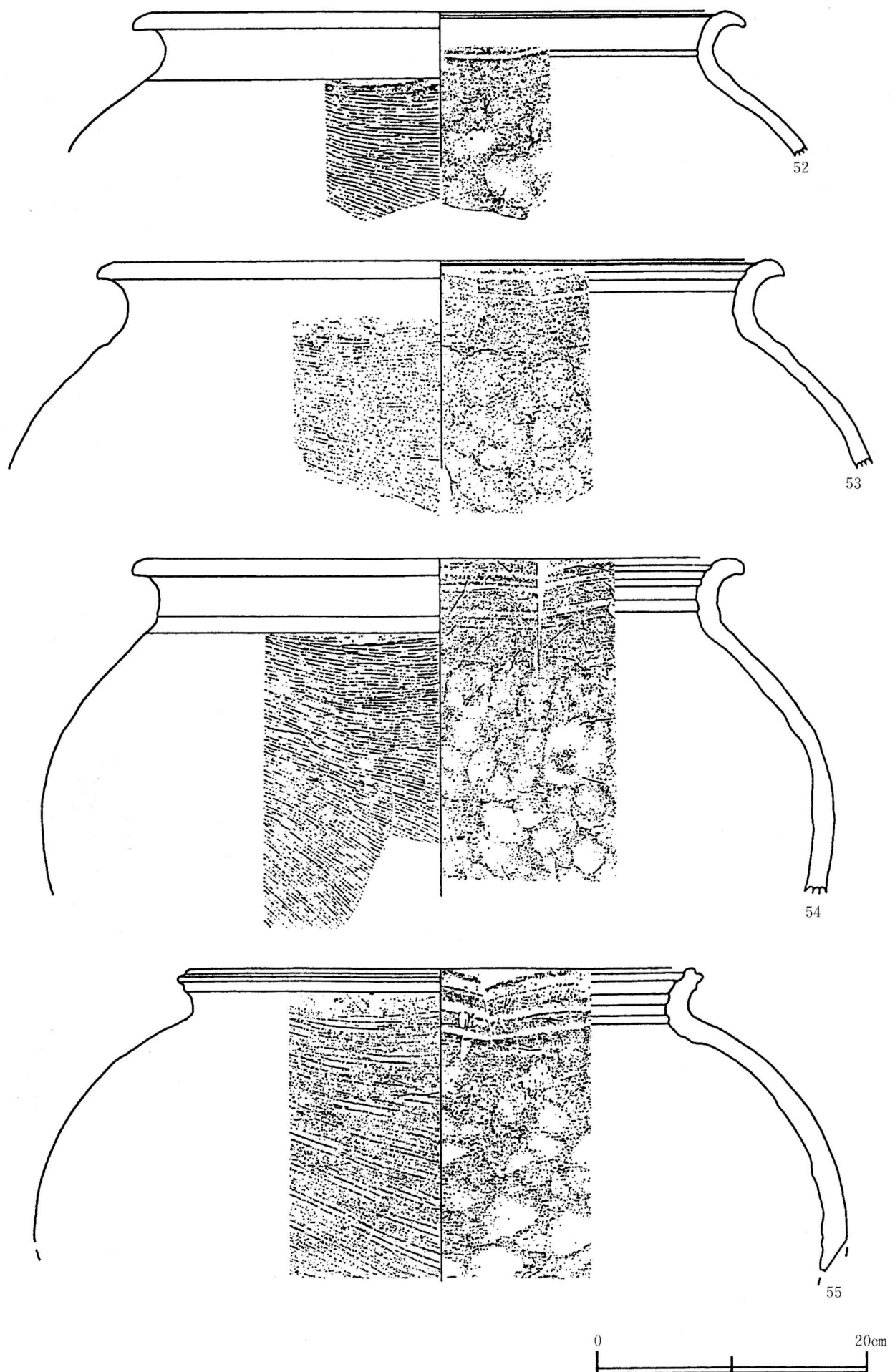
第2図 珠洲系陶器資料(1) エヒバチ長根窯跡出土(1)



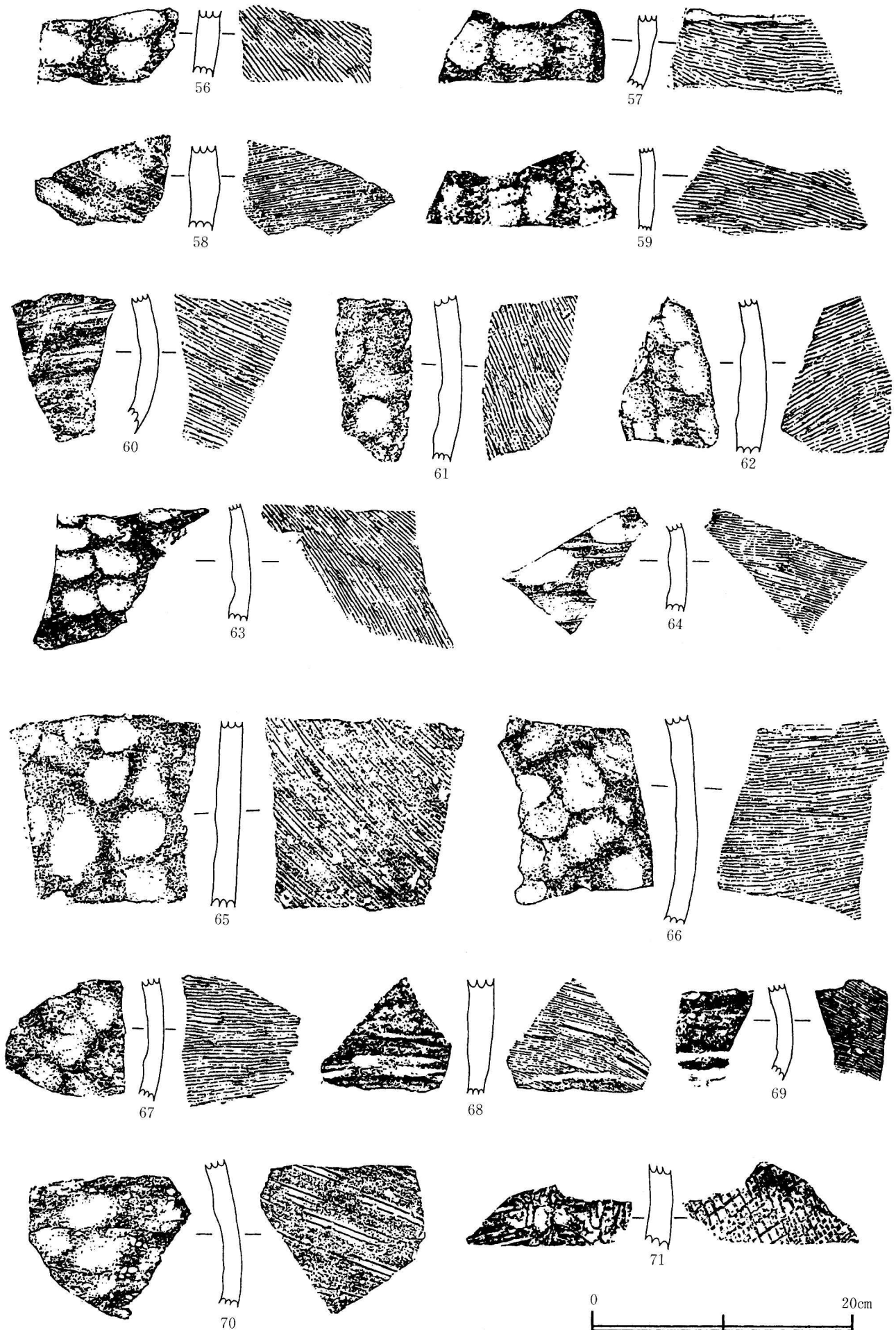
第3図 珠洲系陶器資料(2) エヒバチ長根窯跡出土(2)



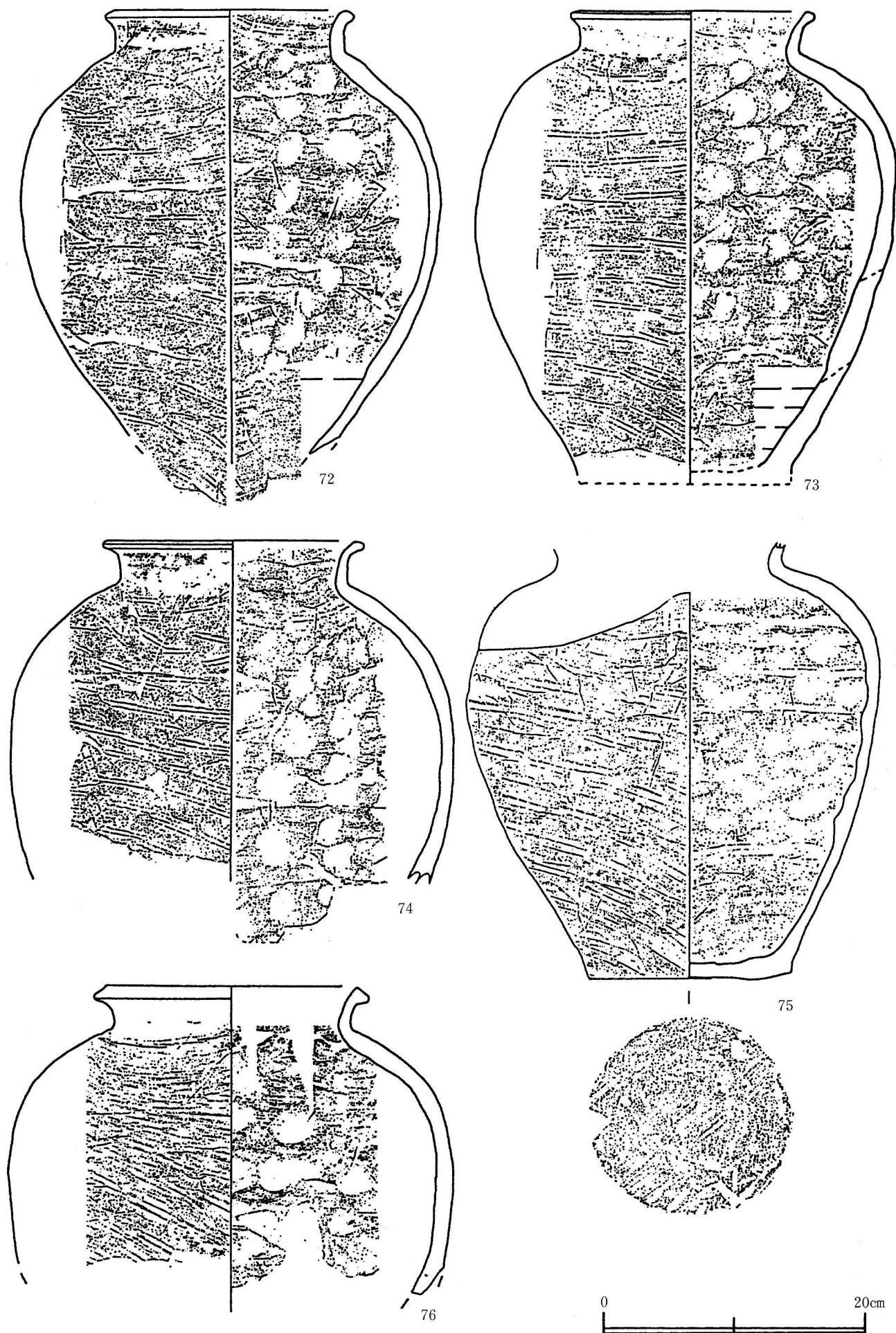
第4図 珠洲系陶器資料(3) エヒバチ長根窯跡出土(3)



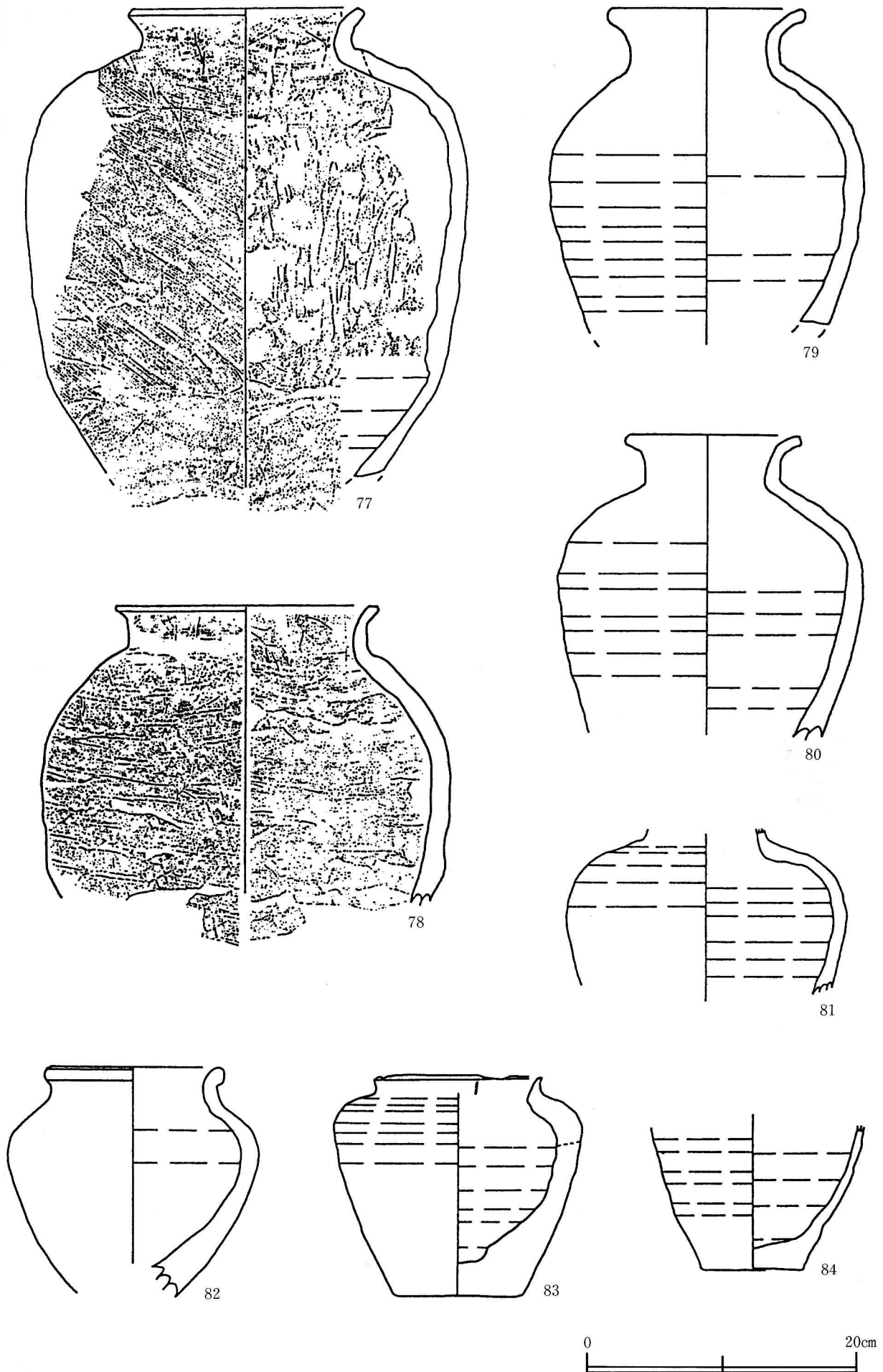
第5図 珠洲系陶器資料(4) 大畑・桧山腰窯跡出土(1)



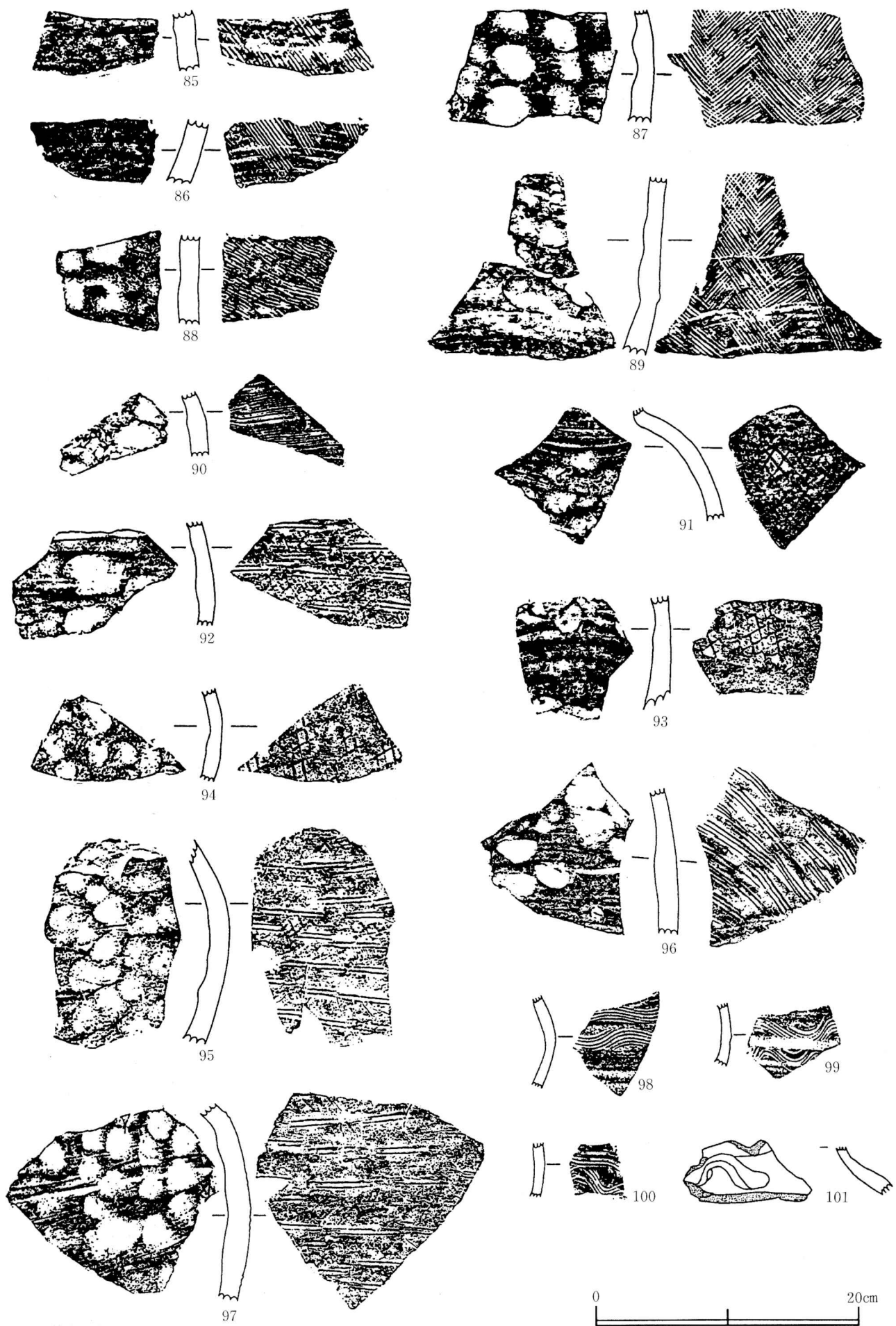
第6図 珠洲系陶器資料(5) 大畑・桧山腰窯跡出土(2)



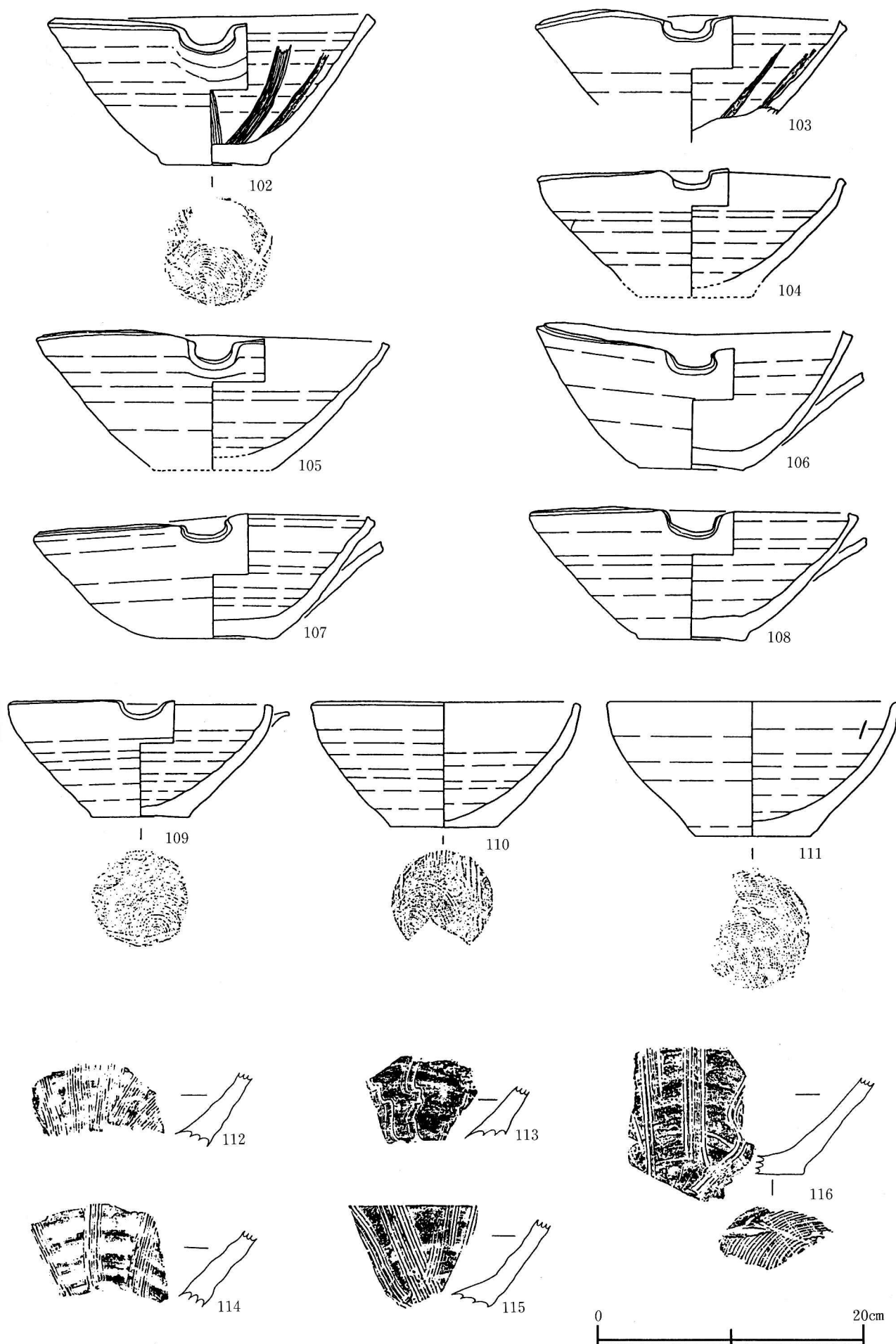
第7図 珠洲系陶器資料(6) 大畑・桧山腰窯跡出土(3)



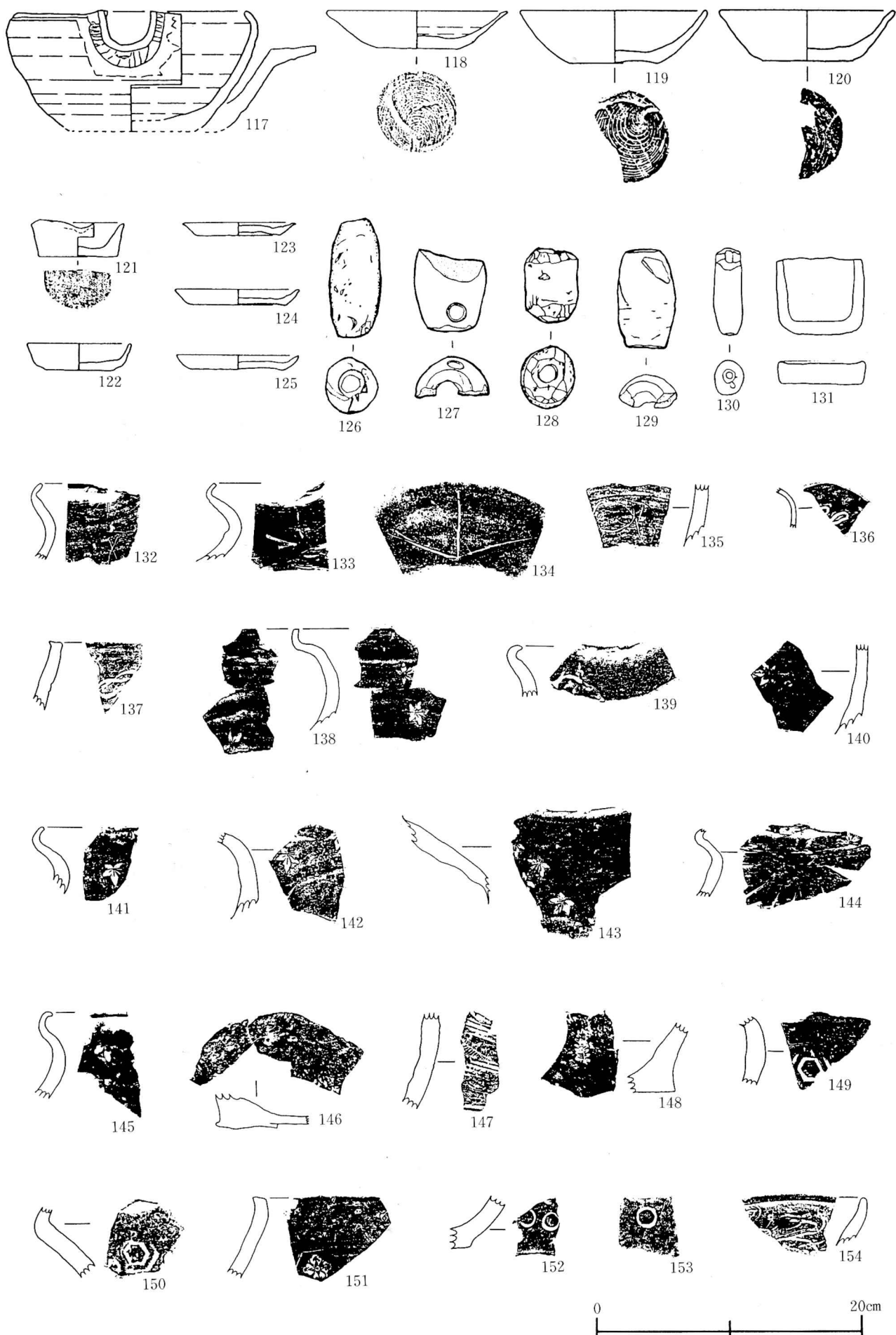
第8図 珠洲系陶器資料(7) 大畑・桧山腰窯跡出土(4)



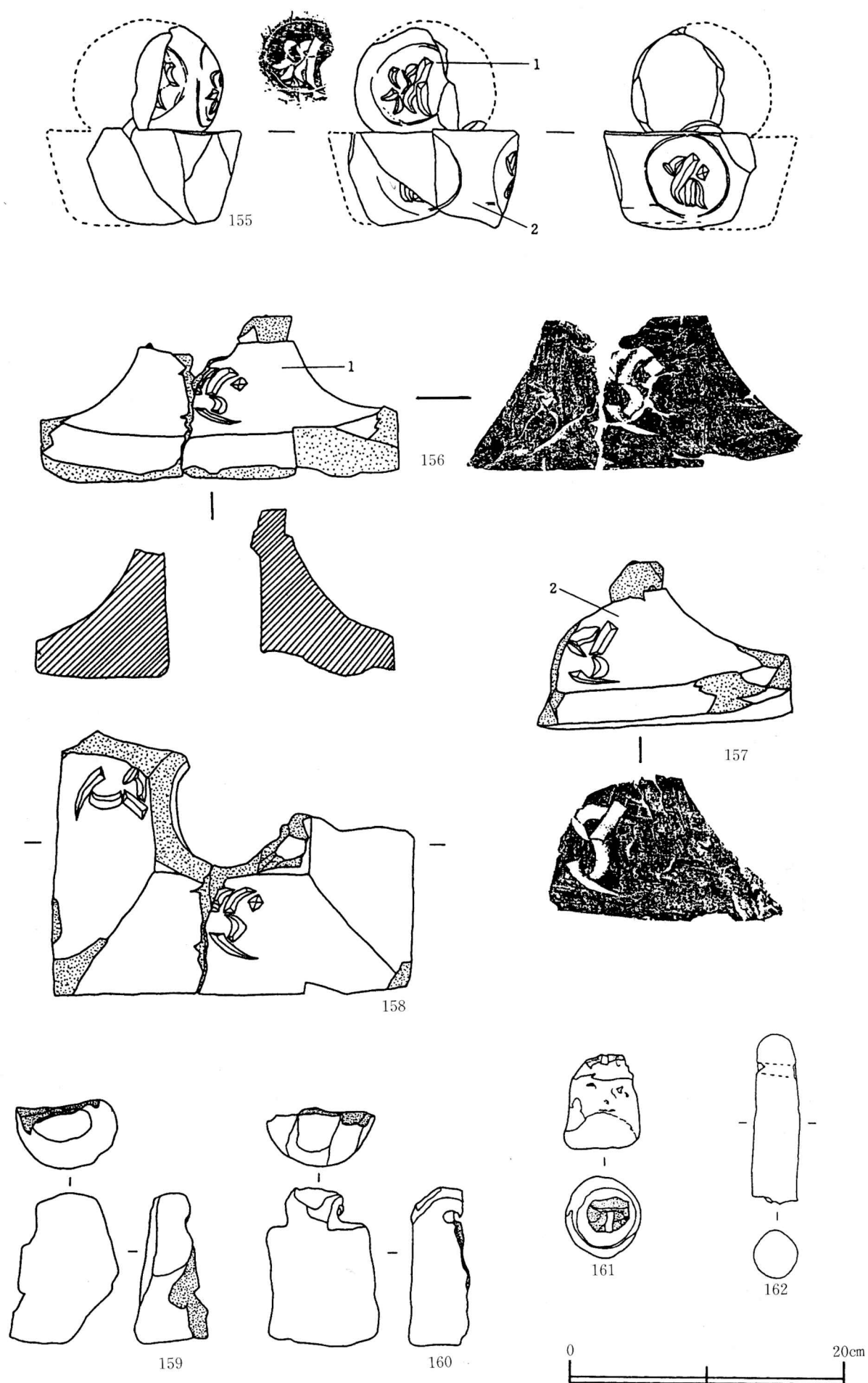
第9図 珠洲系陶器資料(8) 大畑・桧山腰窯跡出土(5)



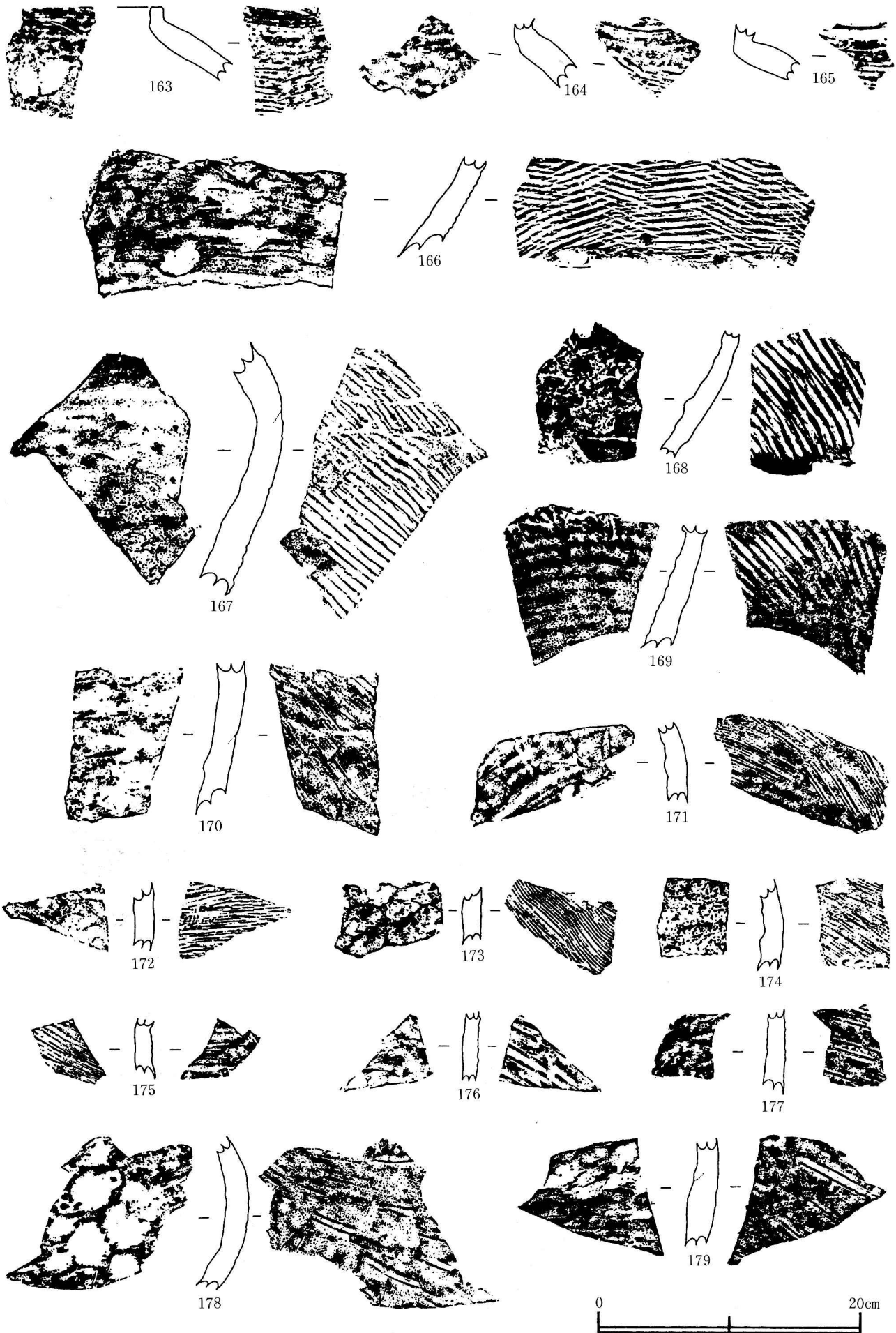
第10図 珠洲系陶器資料(9) 大畑・桧山腰窯跡出土(6)



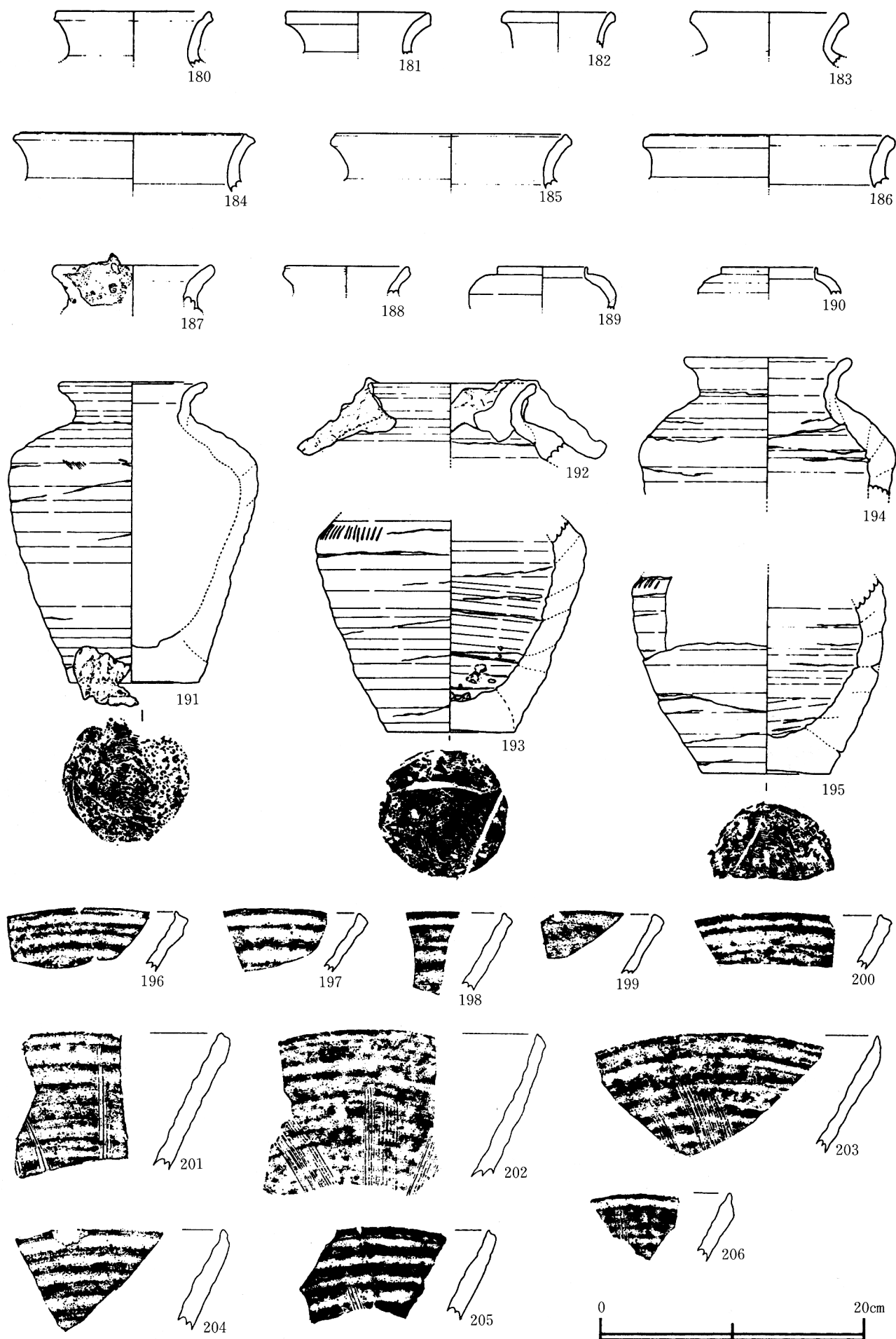
第11図 珠洲系陶器資料(10) 大畑・桧山腰窯跡出土(7)



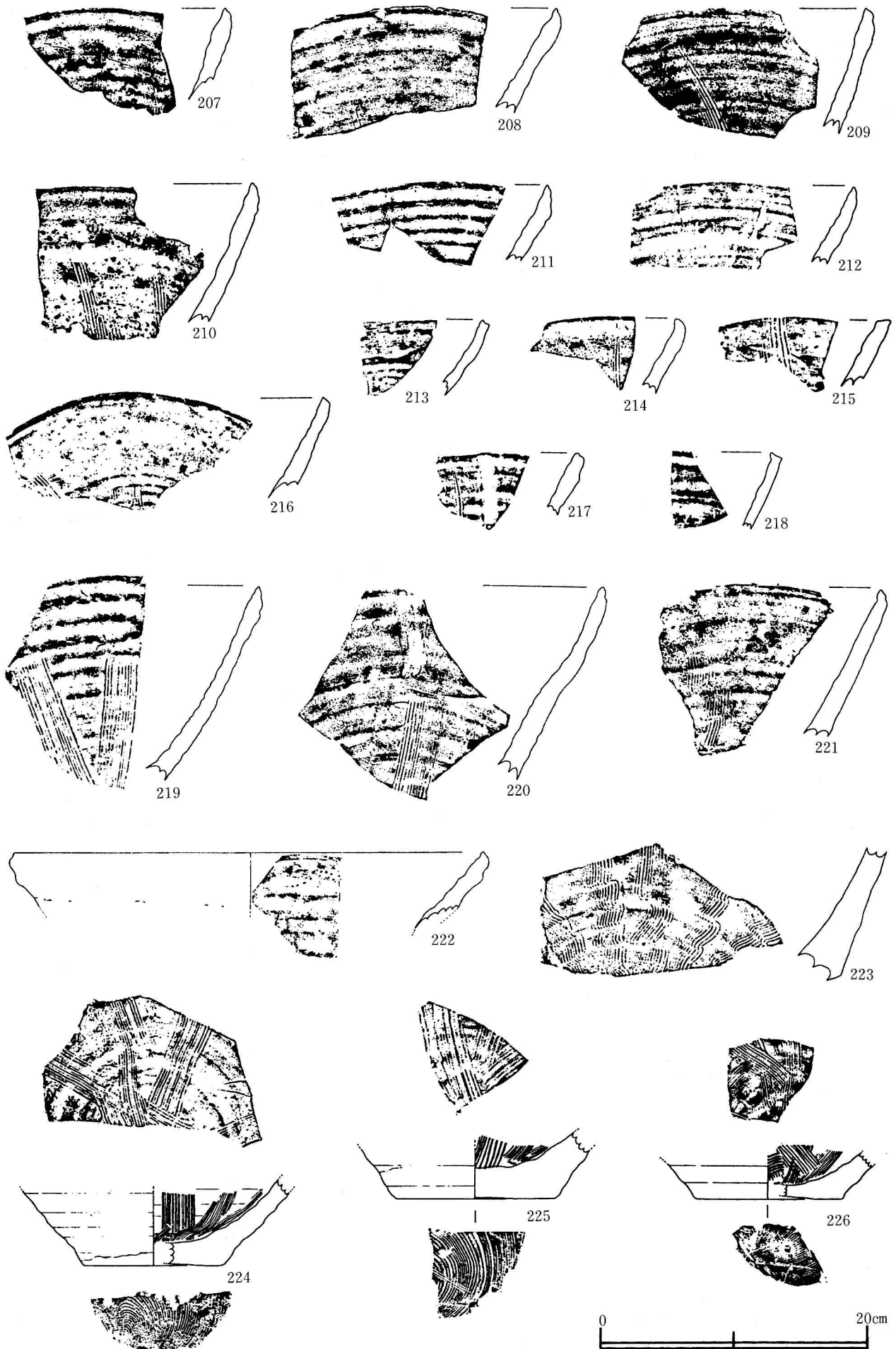
第12図 珠洲系陶器資料(11) 大畑・桧山腰窯跡出土(8)



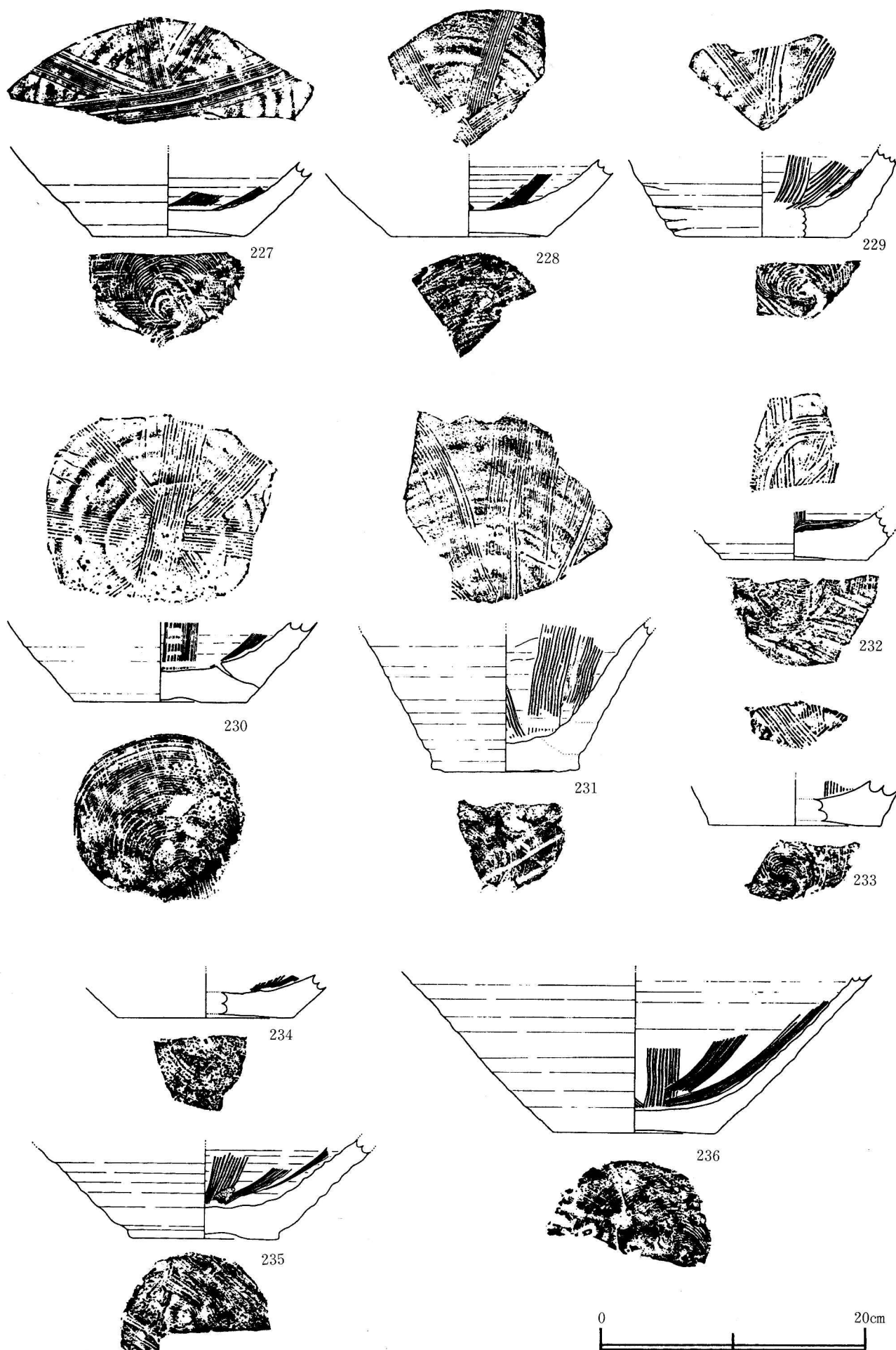
第13図 珠洲系陶器資料(12) 大畑窯跡出土(1)



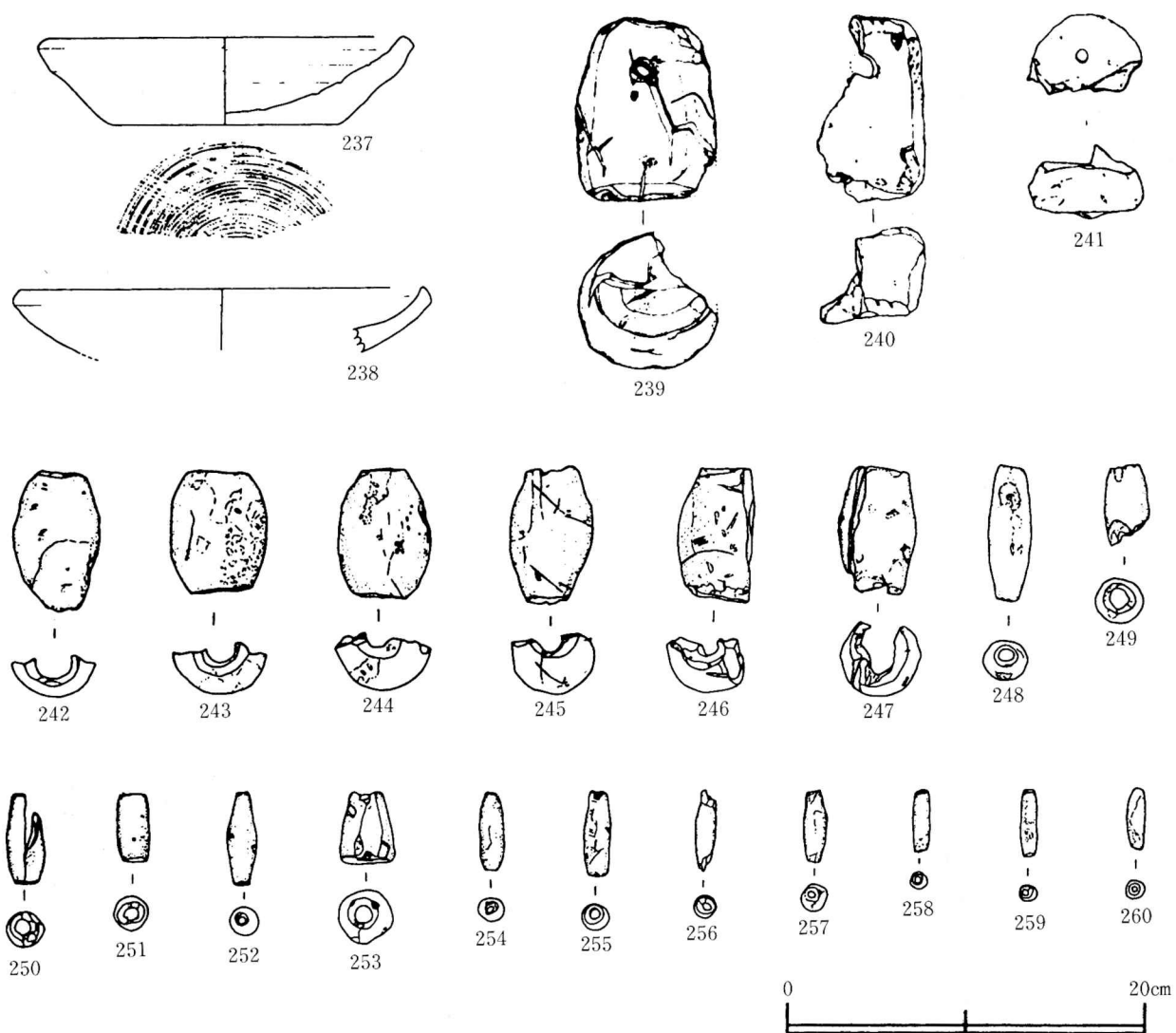
第14図 珠洲系陶器資料(13) 大畑窯跡出土(2)



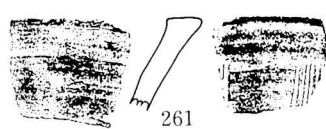
第15図 珠洲系陶器資料(14) 大畑窯跡出土(3)



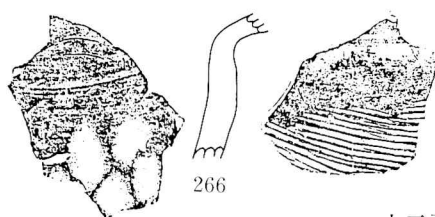
第16図 珠洲系陶器資料(15) 大畑窯跡出土(4)



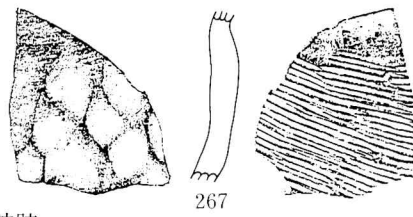
第17図 珠洲系陶器資料(16) 大畑窯跡出土(5)



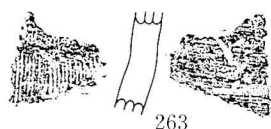
小枝指館跡



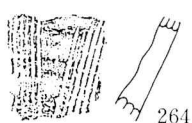
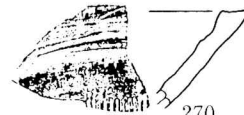
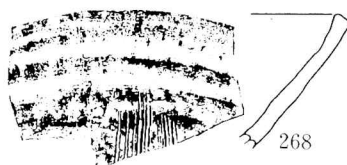
十二所館跡



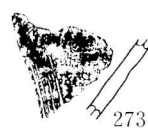
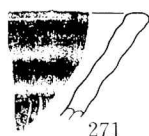
十狐城跡



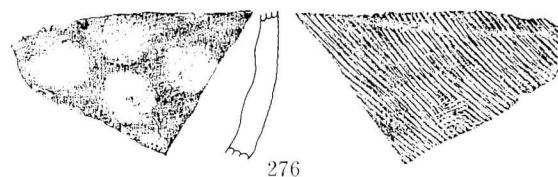
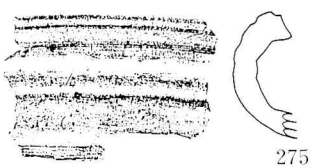
中野館跡



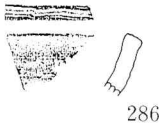
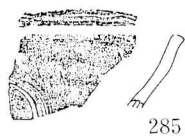
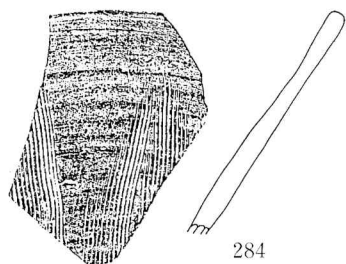
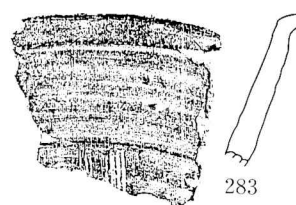
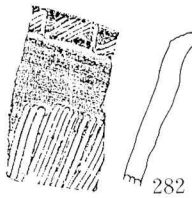
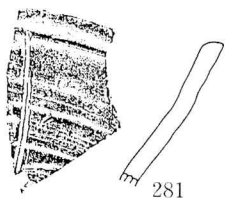
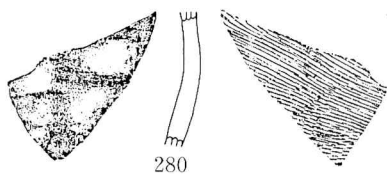
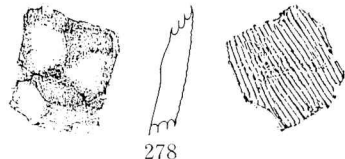
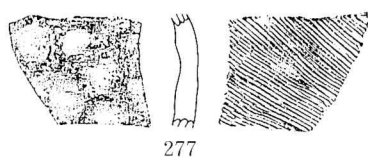
谷地中館遺跡



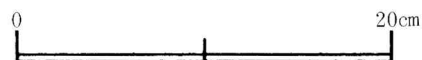
山王岱遺跡〔餌釣館跡〕



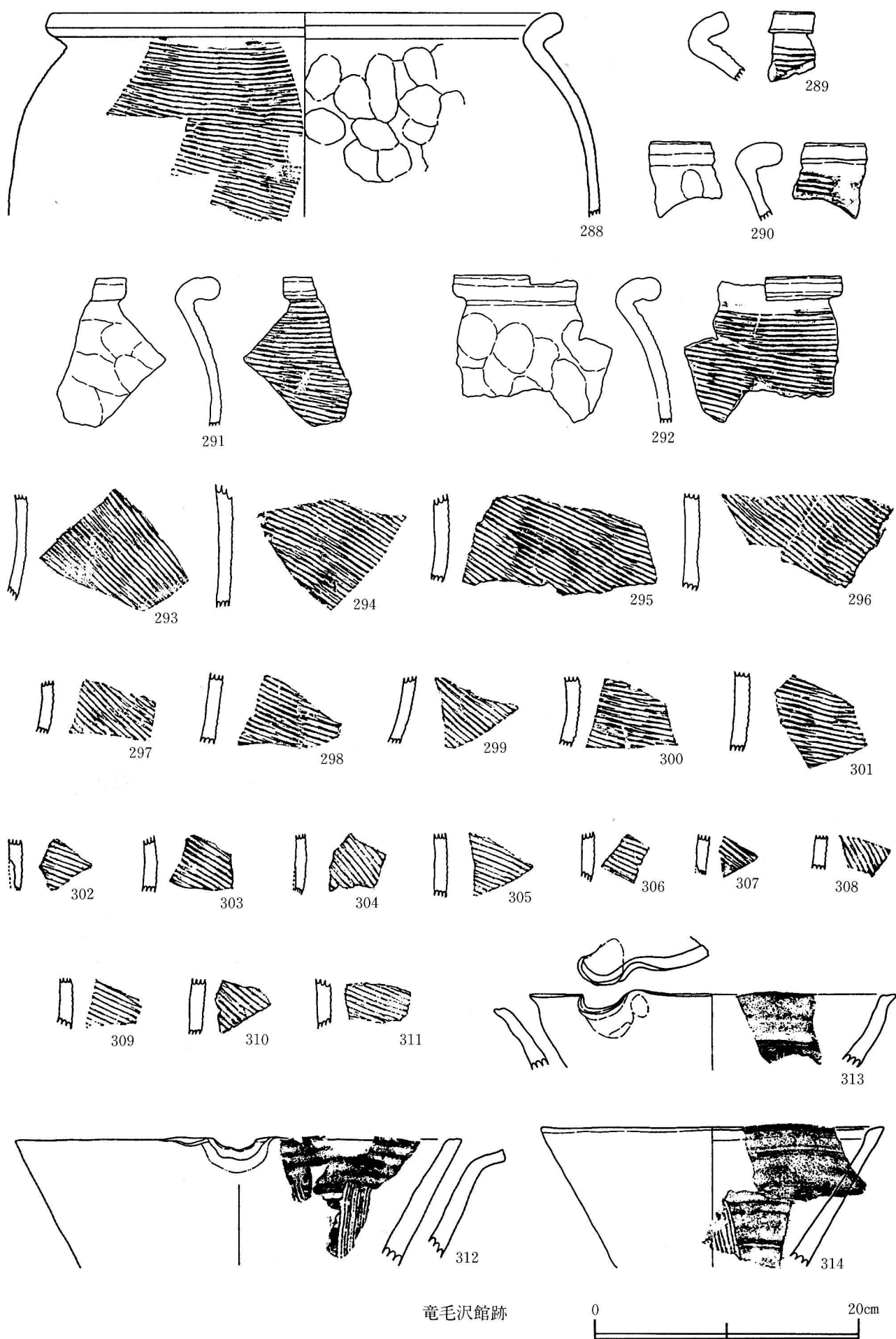
片山館コ遺跡



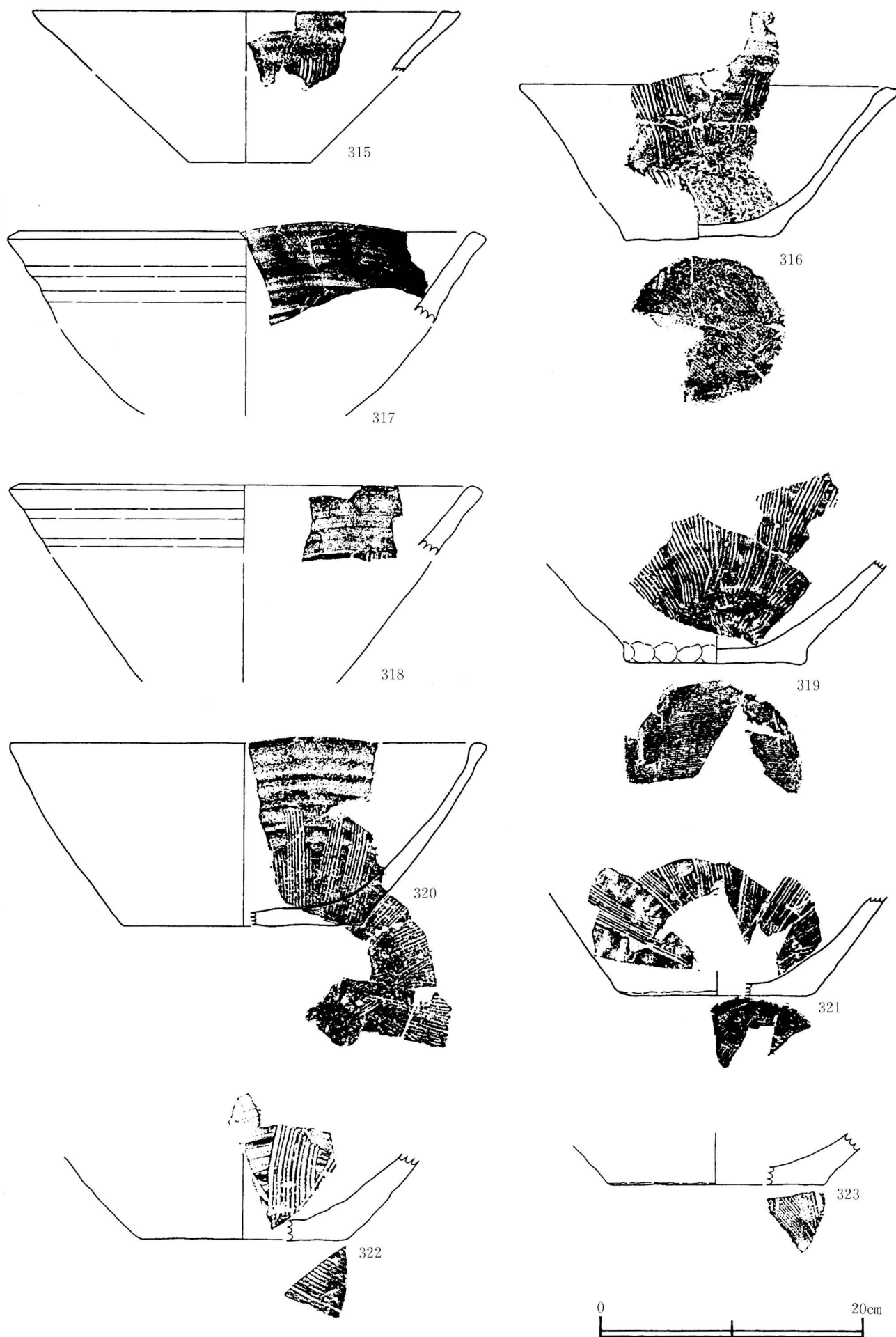
前田館跡



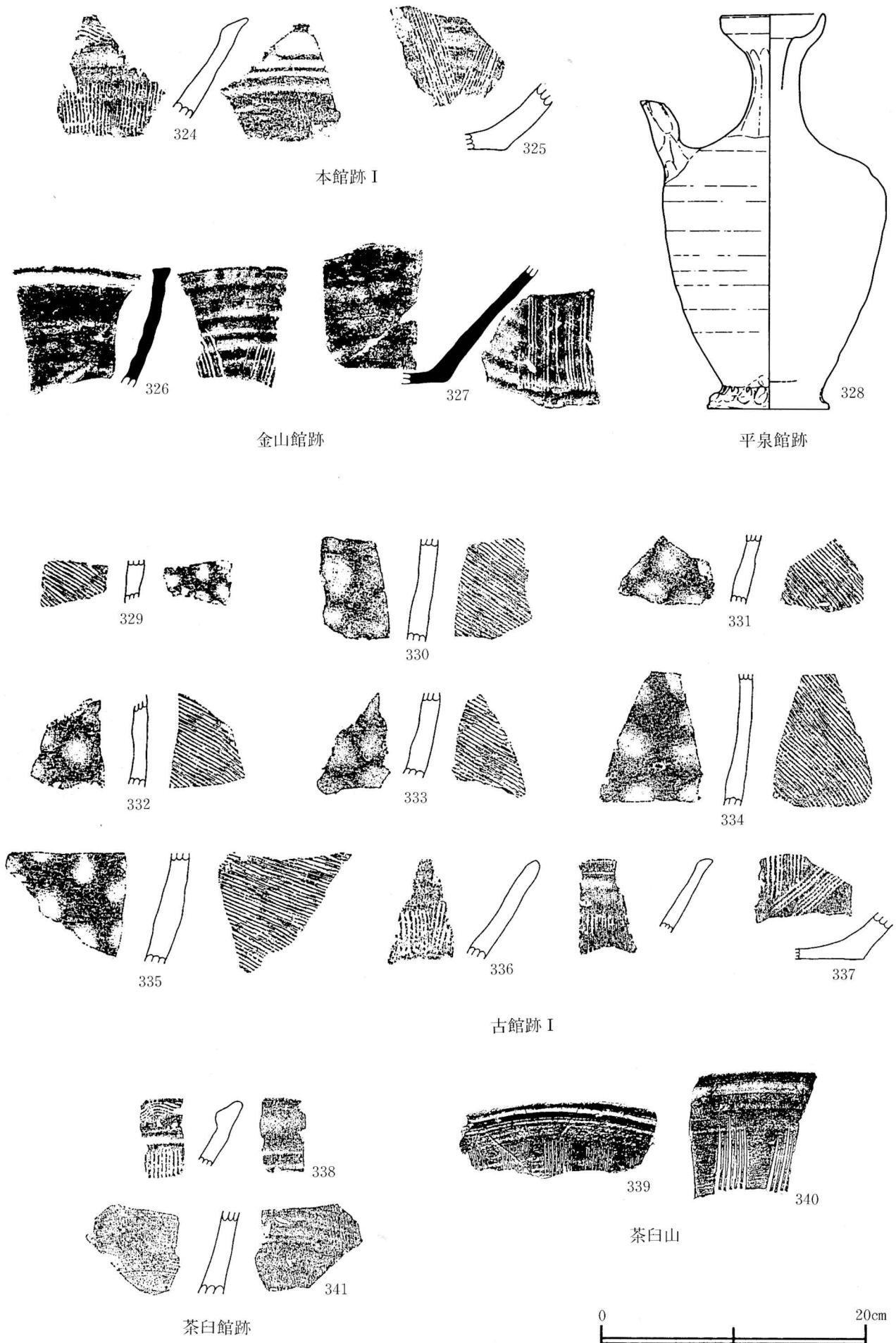
第18図 珠洲系陶器資料(17) 館跡出土(1)



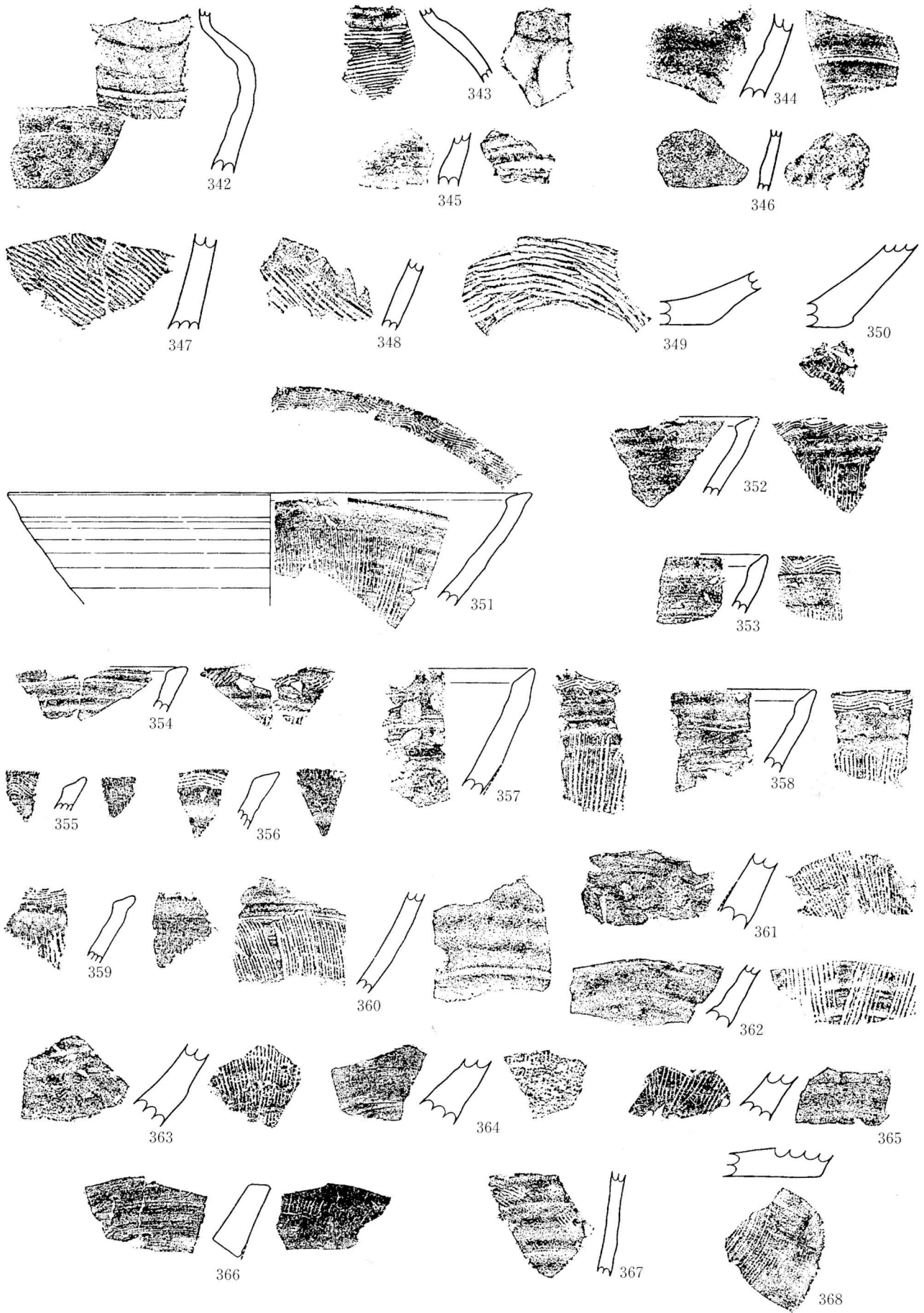
第19図 珠洲系陶器資料(18) 館跡出土(2)



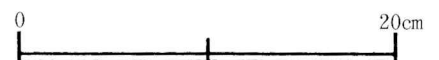
第20図 珠洲系陶器資料(19) 館跡出土(3)



第21図 珠洲系陶器資料(20) 館跡出土(4)



館の上館遺跡



第22図 珠洲系陶器資料(21) 館跡出土(5)

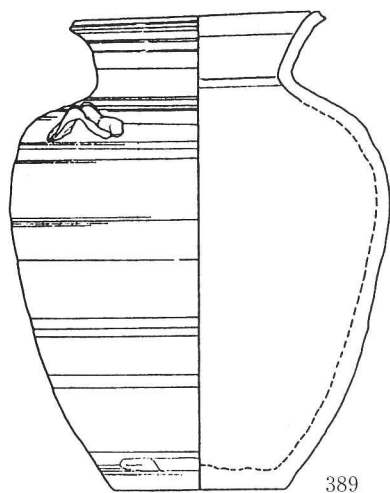


第23図 珠洲系陶器資料(22) 館跡出土(6)



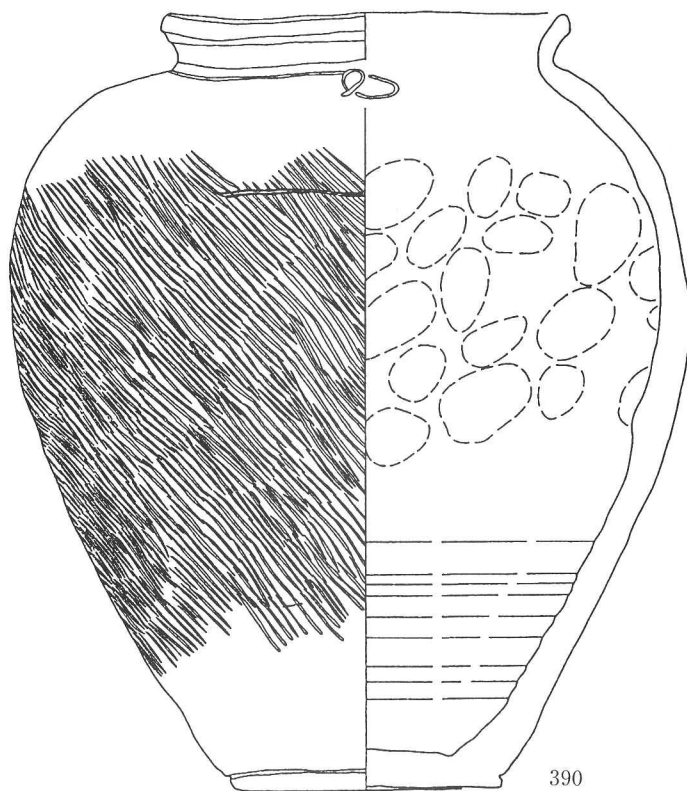
388

弥兵衛館跡



389

館前館跡



390

長者館跡



391

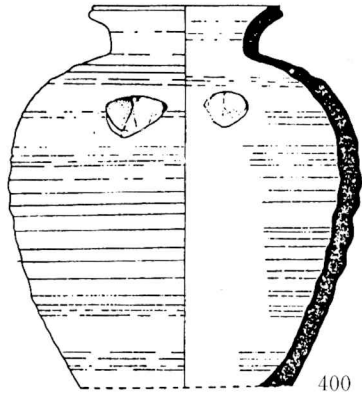
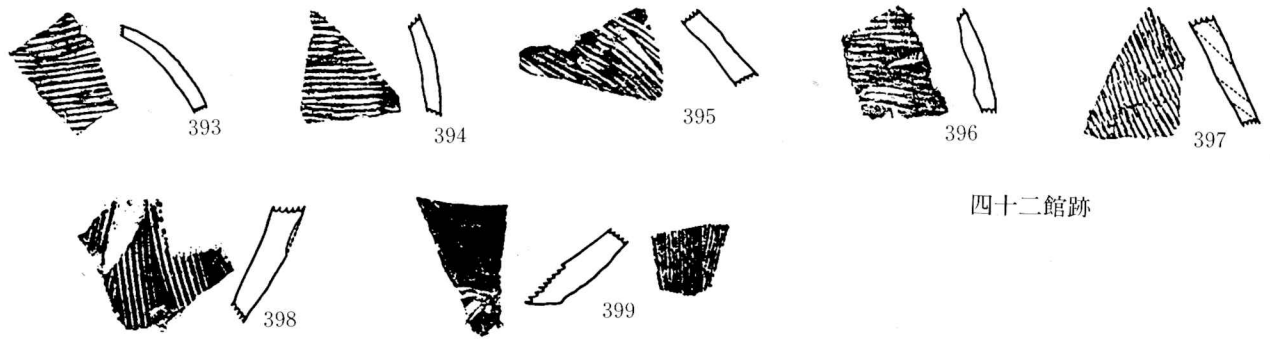
広ヶ野館跡



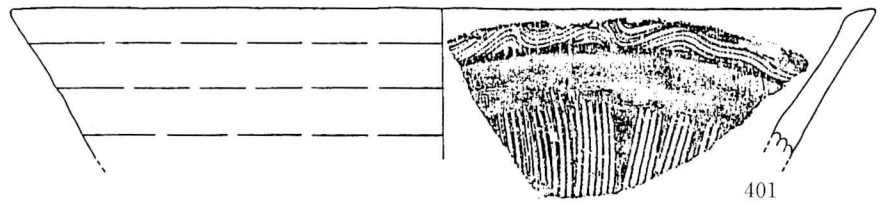
392

根井館跡

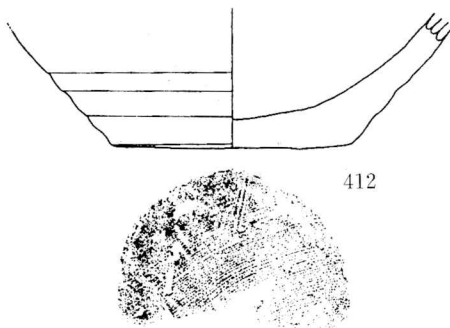
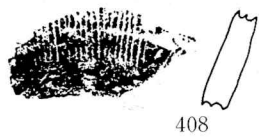
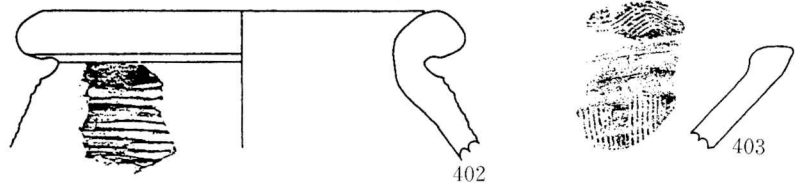
第24図 珠洲系陶器資料(23) 館跡出土(7)



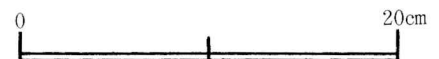
醍醐古館跡



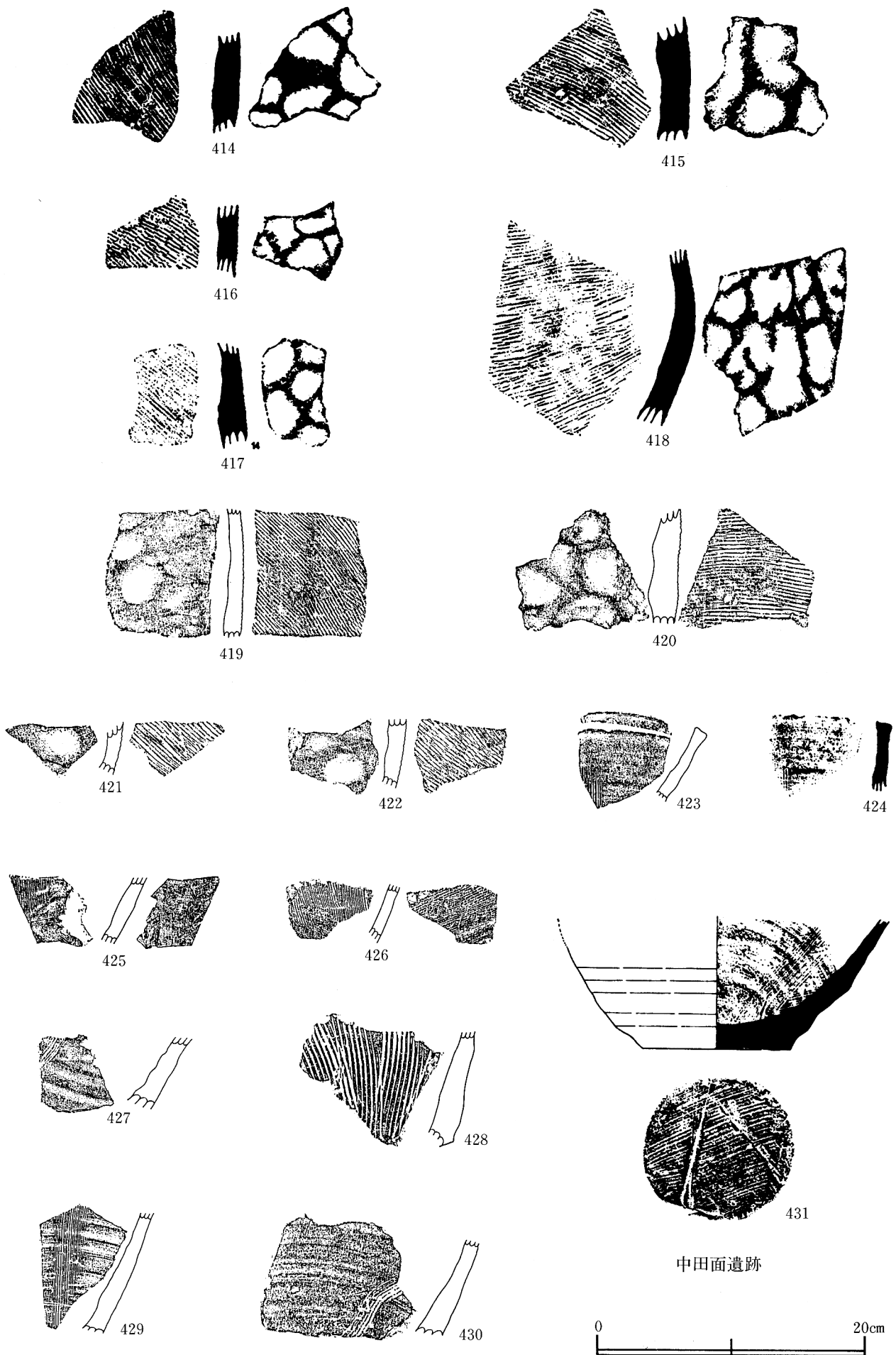
西馬内城跡



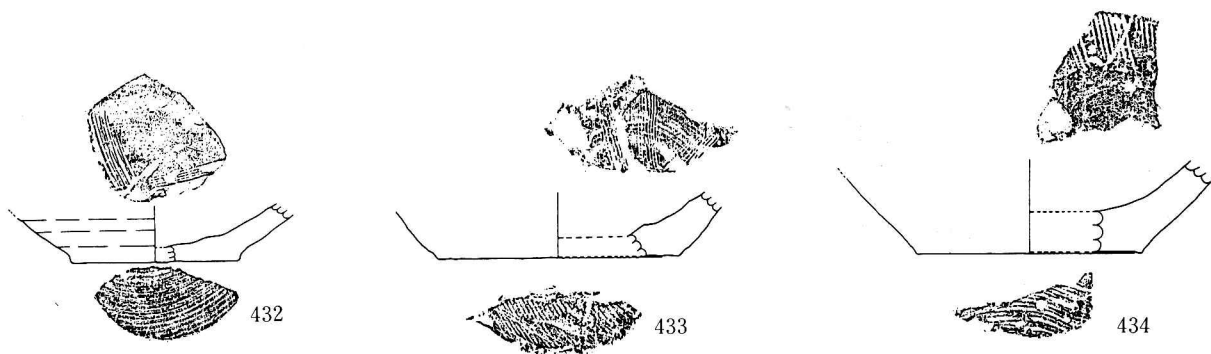
鵜沼城跡



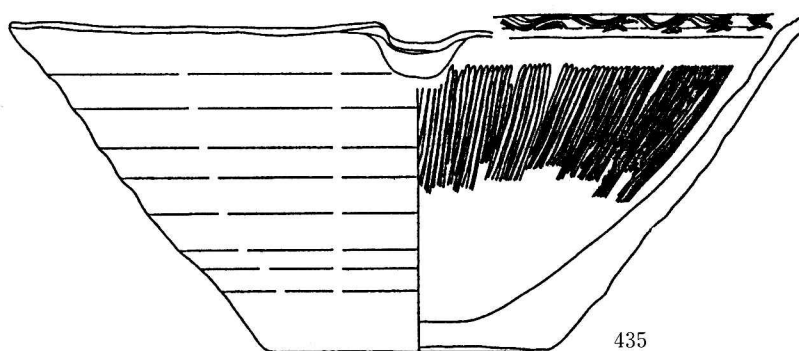
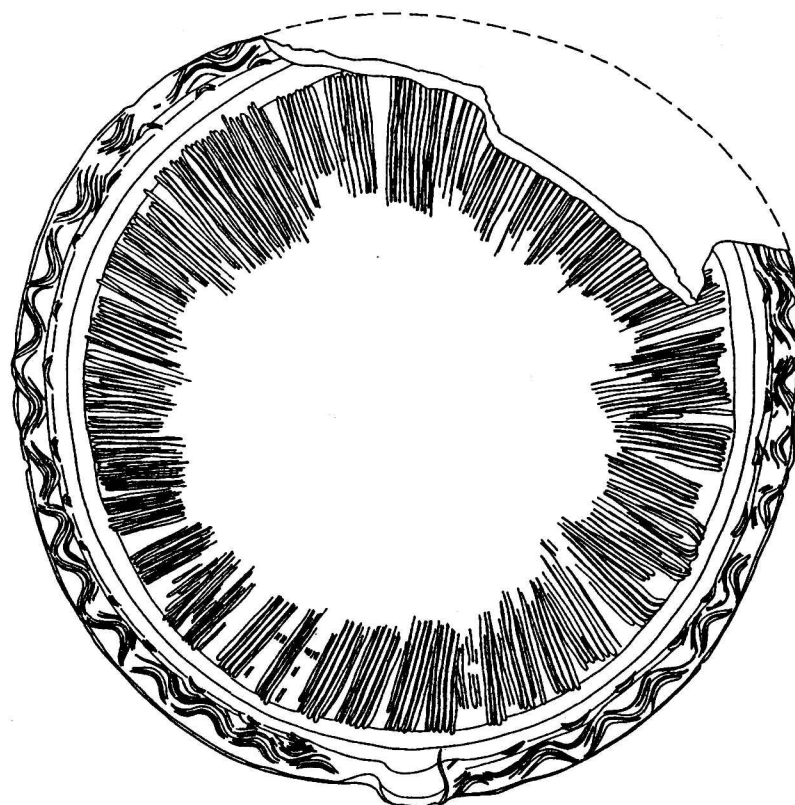
第25図 珠洲系陶器資料(24) 館跡出土(8)



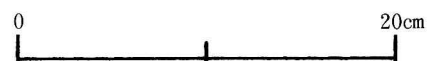
第26図 珠洲系陶器資料(25) 集落跡出土(1)



中田面遺跡

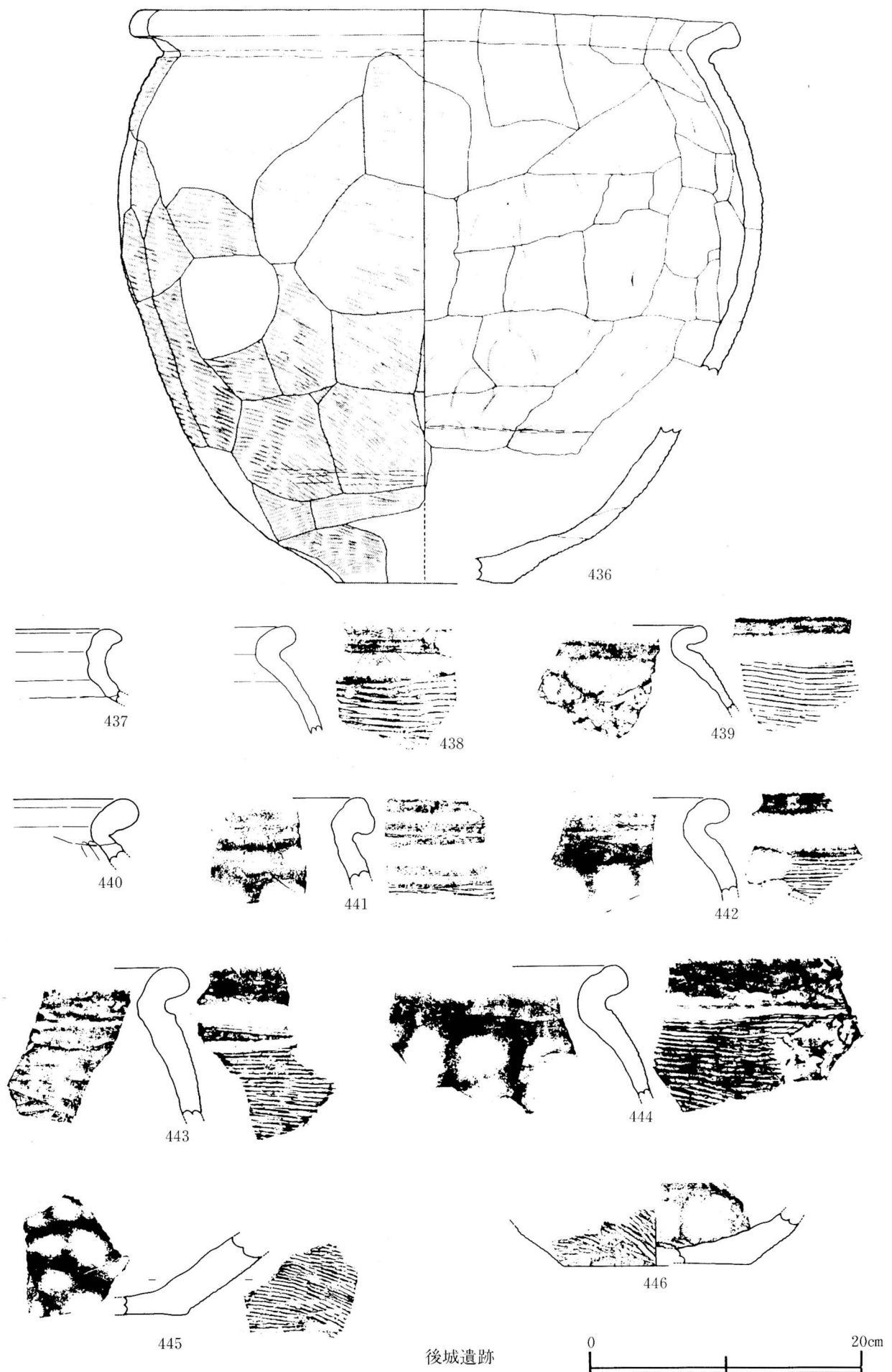


435

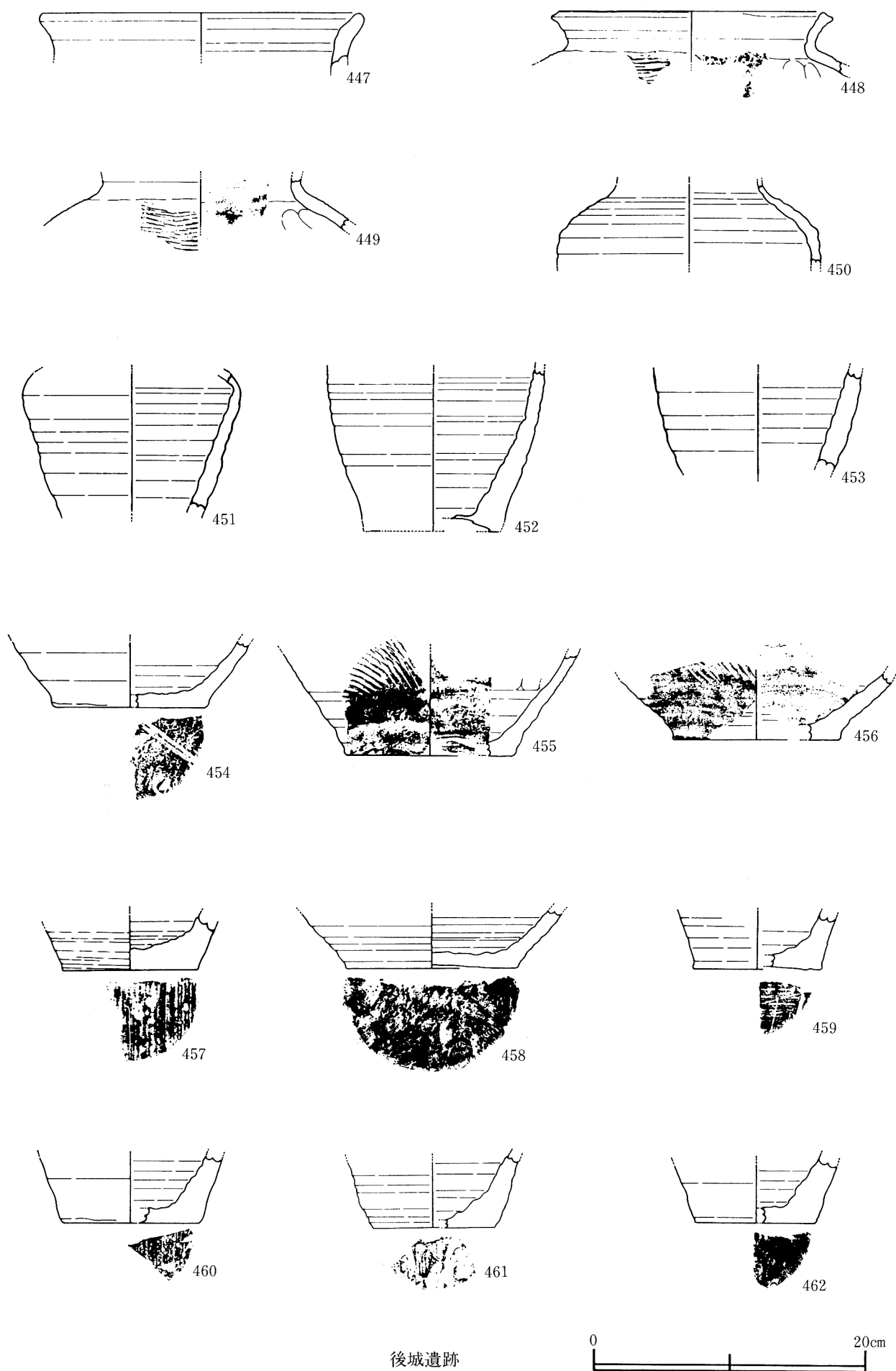


穀丁遺跡

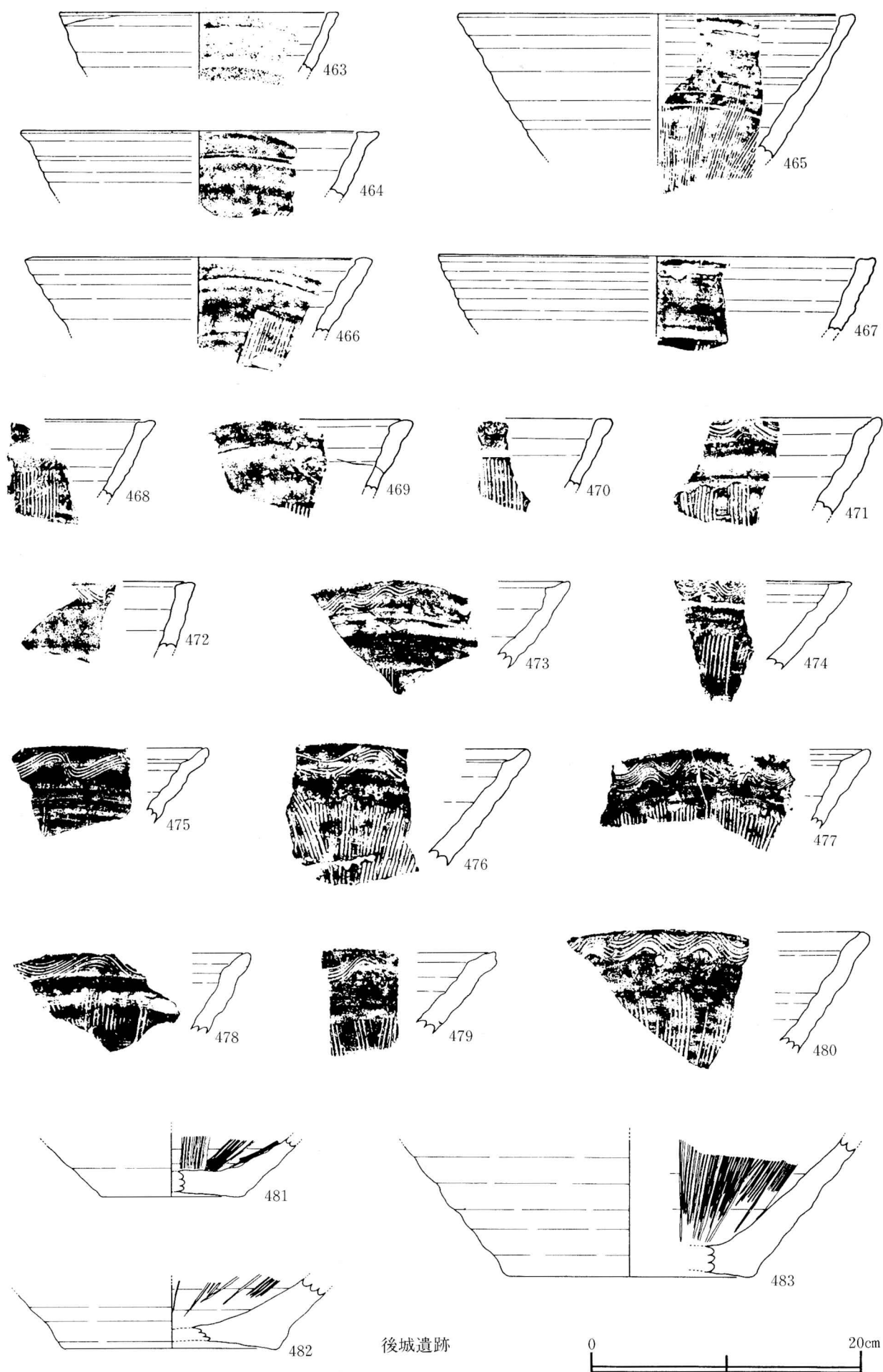
第27図 珠洲系陶器資料(26) 集落跡出土(2)



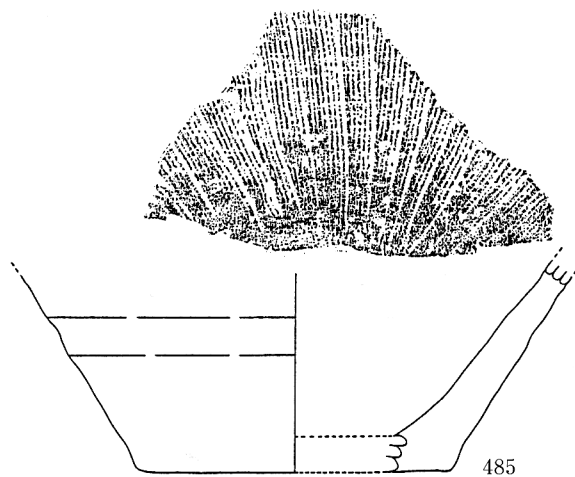
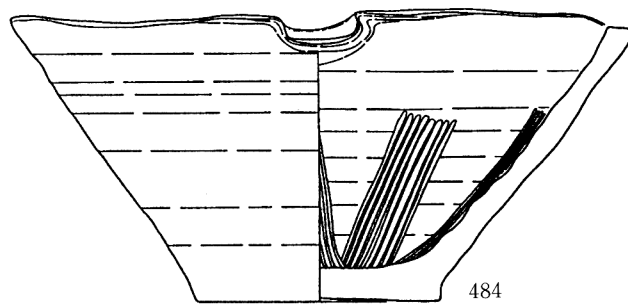
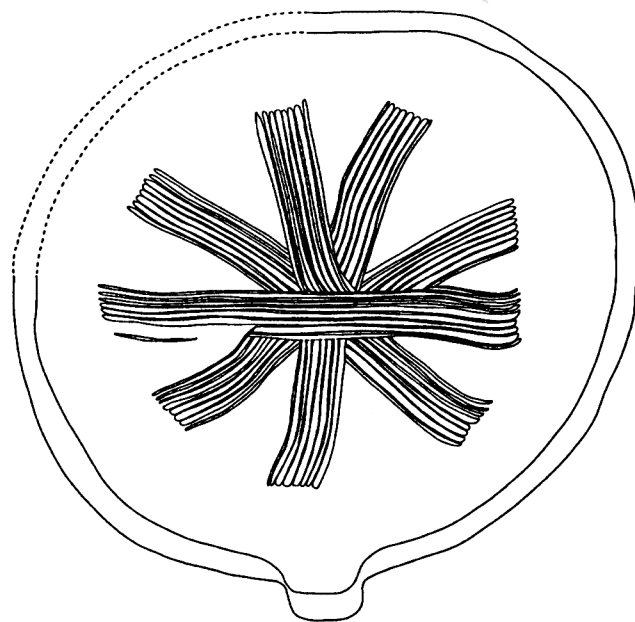
第28図 珠洲系陶器資料(27) 集落跡出土(3)



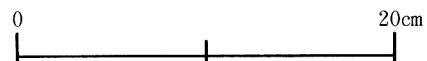
第29図 珠洲系陶器資料(28) 集落跡出土(4)



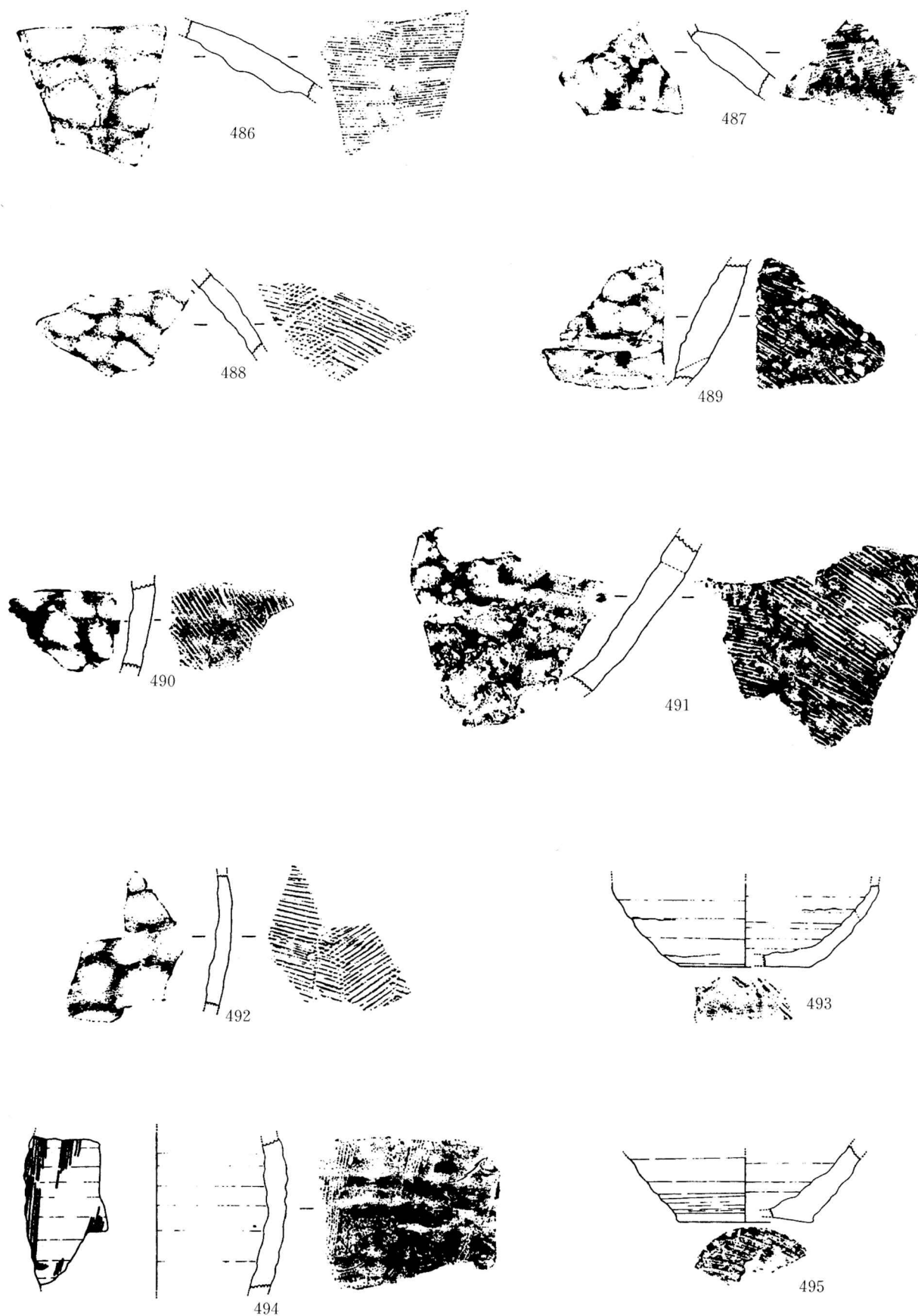
第30図 珠洲系陶器資料(29) 集落跡出土(5)



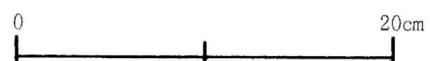
後城遺跡



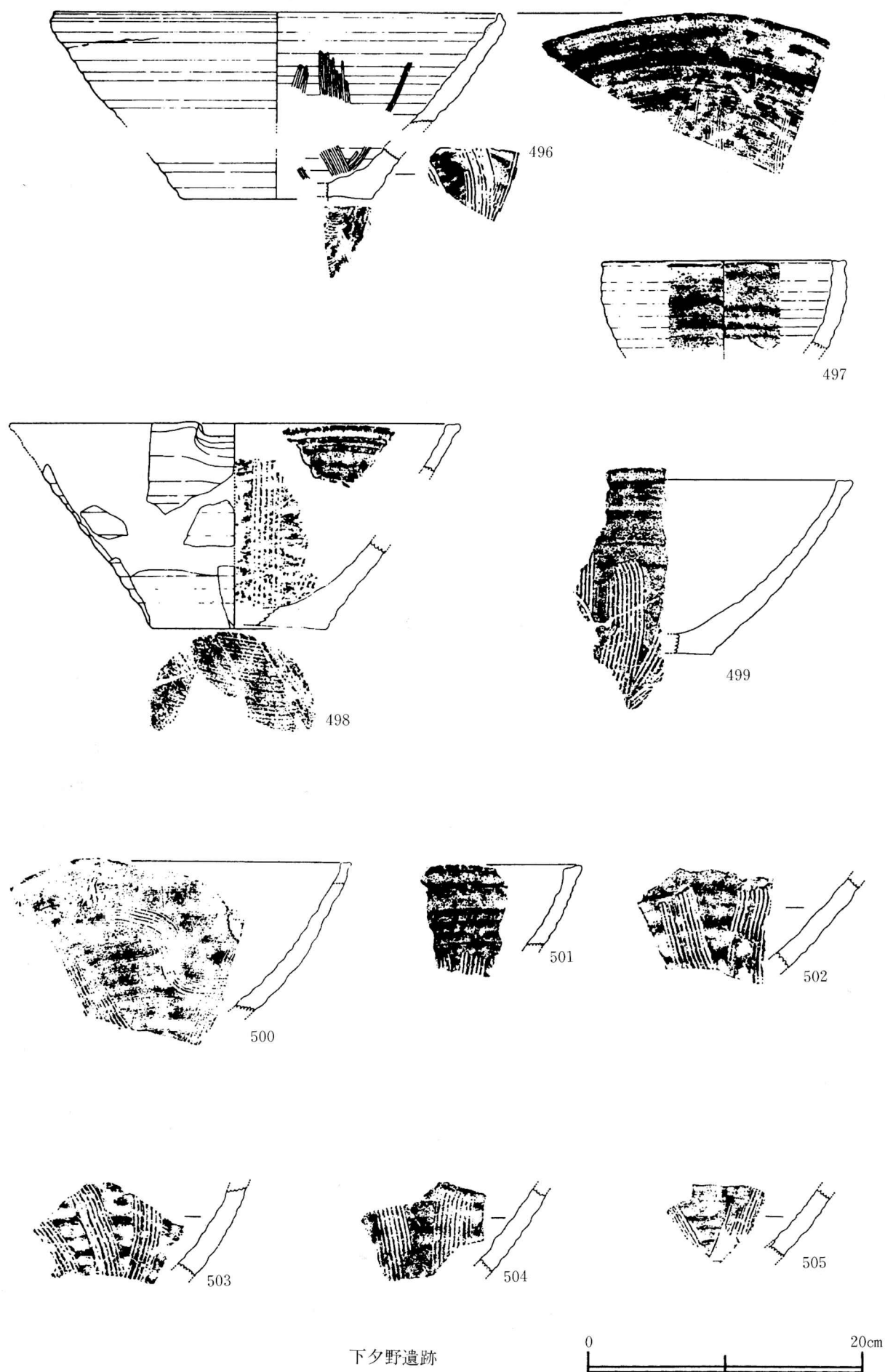
第31図 珠洲系陶器資料(30) 集落跡出土(6)



下夕野遺跡



第32図 珠洲系陶器資料(31) 集落跡出土(7)



第33図 珠洲系陶器資料(32) 集落跡出土(8)